

(5)

於  
武  
市  
赤  
塔

401

REEL No. A-0303

0294

アジア歴史資料センター

昭和十一年八月七日  
ブラコエシエンタ發  
日本 省 着

有田外務大臣

下村領事代理

一 當館正門口ニハ保護ノ名目ヲ以テ事實上ノ監視所ヲ設ケ民警一名ヲ晝夜ノ別ナク立哨ノ上出入者ヲ監視セシメ居リ又附近ニハ二、三名ノ私服ヲ配置シテ館員及滿洲國人主要人物ヲ尾行セシメ居レリ四、五月中ニ於ケル右尾行ハ最露骨ヲ極メタルモ最近ハ巧妙トナリタル爲カ之ヲ認メサルカ如シ但出張先ニ於ケル尾行ハ依然トシテ露骨ヲ極ム

ニ 當館ニ出入スル者ハ直ニ本署ニ連行、威嚇セラルル爲從前ヨリ出入セル語學教師及牛乳配達夫ノ如キモ種々口實ヲ設ケテ出入ヲ拒絕スルニ至レリ從テ交際ノ如キハ思ヒモ寄ラサルコトナリ  
三 物品ノ購入ニハ妨害セラレ或ハ壓迫ヲ加ヘラレタルコトナシ

外務省

11.6 S 13.1.5.0-3 569

昭和十一年八月七日  
ブラコエシエンタ發  
日本 省 着

有田外務大臣

下村領事代理

一 當館正門口ニハ保護ノ名目ヲ以テ事實上ノ監視所ヲ設ケ民警一名ヲ晝夜ノ別ナク立哨ノ上出入者ヲ監視セシメ居リ又附近ニハ二、三名ノ私服ヲ配置シテ館員及滿洲國人主要人物ヲ尾行セシメ居レリ四、五月中ニ於ケル右尾行ハ最露骨ヲ極メタルモ最近ハ巧妙トナリタル爲カ之ヲ認メサルカ如シ但出張先ニ於ケル尾行ハ依然トシテ露骨ヲ極ム

ニ 當館ニ出入スル者ハ直ニ本署ニ連行、威嚇セラルル爲從前ヨリ出入セル語學教師及牛乳配達夫ノ如キモ種々口實ヲ設ケテ出入ヲ拒絕スルニ至レリ從テ交際ノ如キハ思ヒモ寄ラサルコトナリ  
三 物品ノ購入ニハ妨害セラレ或ハ壓迫ヲ加ヘラレタルコトナシ

外務省

11.6 S 13.1.5.0-3 609

秘

公箱送

電信寫

昭和12 三二一八四 略

新東京 十二月十日發  
本省 十日發着

歐、亞

廣田外務大臣

植田大使

第一二五六號

武市滿洲國領事館報告（十二月二日附）要領御參考迄左ノ通り

盡備ノ非人道的當館追ハ屢報ノ通りナルカ最近ニ於ケル執拗不遜ナル尾行振及税關ノ態度ハ少クトモ一國ノ代表及其ノ館員ニ對スル態度ニアラスシテ全ク因人殺ニ屬シ儘ニ捕縛ヲ投ケ掛ケサルニ過キスト言フモ過言ニアラス即チ

一、武市、黒河間聯絡ニ當リ從來尾行ハ關門（國境監視隊及税關駐在

）迄ハ來ラス儘ニ往復ノ街頭尾行ノミナリシカ十一月末（結氷期

後）以來ハ右關門内ニ尾行シ來リ身ヲ寸尺ノ近キニ寄セテ小官等ノ一舉手一投足及片言隻句ヲ警戒スル状態ナリ其ノ態度ノ不遜傲慢實ニ切齒スルニ餘リアリ此ノ不遜ナル態度ハ市中何レニ於テモ然リ尙大石主事ノ旅行中ニ於テモ同様ノ執拗ナル取扱ヲ受ケタル趣ナリ

三、税關ノ態度モ非常ニ惡化シ寸毫ノ好意ヲモ認メ得ス既報ノ如ク佐藤主事ノ如キハ黒河ニ赴ク際警備ノ私信ヲ沒收サレ又新聞雜誌等ノ印刷物ハ全部一應監視隊ニ提示シ其ノ指示ニ依リ處理スル状態ナリ尤モ手紙トシテハ携行物ノ檢關權ハ監視隊長ニ屬スト雖從來ハ便宜的取計ヲ爲シ居リタリ  
四、哈爾濱、滿洲里へ專電セリ

祕第一一七九號

康徳四年十二月十七日

駐哈爾濱外務局特派員  
下村 信 貞

外務局長官

神 吉 正 一 殿

武市税關ノ佐藤主事手提鞆検査ニ關スル件

十二月十六日ソ聯總領事代理クスネツオフ副領事パウロフヲ帶同上野事務官ヲ來訪シ十二月三日附往信祕第一一二五號ヲ以テ報告置ノ本件ニ關シ本國ヨリノ回訓ニ依ルトテソ聯税關官憲ハ佐藤主事ノ查證カ公用查證ナリシ爲規則ニ基キ所持品ノ検査ヲ行ヘルモノナルカソノ際書翰ヲ發見シソノ受信人及發信人ヲ質シタル處同主事ハ發信人カ何人ナリヤヲ明ニセサリシニ因リ之ヲ沒收セル次第ナリ仍テ外務人民委員部ノ命ニ依リ滿側抗議カ無根據ナル旨指摘シ右抗議ヲ拒

(日本標準規格B5)

405

外 務 省

406

否スト述ヘタリ當方ハ斯ル回答ニ對シ貴方ハ全責任ヲ負フヤト確メタル處クハ然リト答ヘ次テ當方ハ我方抗議ヲ支持スルト共ニ本件ハ事重大ニ付直チニ中央ニ報告スヘシ尙疑ニネイマルク外交代表ハ公用查證ノ所持者ハ手提鞆一箇ヲ携行シ得ル旨武領ニ言明セルコトアリ(武領發長官宛六月六日附祕第一一九號參照)右ニ依ルモ佐藤主事カ手提鞆ヲ所持シ且無禮ナル質問ニ答ヘサリントスルモ這ハ當然ナリ且該書信ハソノ内容公務ニ關スルモノニテ我方中央ハ斯ノ如キ公用ニ關スル書翰ノ沒收ニ對シテハ特別ノ注意ヲ拂ヒ居ルカ貴國官憲ハ之ヲ開披シ事ノ意外ニ見當カ逸レ大イニ失望シ後悔シタルナルヘシト擲諭シ右書信ノ返還方要求セル處クハソ聯ノ規則ニ依レハ公用查證所持者ハ検査ヲ免カルルヲ得ス從テネ外交代表ノ言明ナルモノハ事實トセハ違法ニシテ今後ハ武領館員カソ聯規則ニ從フ様希望スト嘯キ尙ソ聯領事館員モ屢々検査ヲ受ケタルコトアリトパウロフヲ願テ合樋ヲ求メバハ然リソ聯ニ於テハ旅券ハ入國ノ際検査スルノ

(日本標準規格B5)

外 務 省



ミナルカ自分ハ今度ノ來哈ノ途中再三白系露人ヨリ旅券ノ検査ヲ受  
ケタリト的逸レノ言ヲ挿ミ又クハソ側領事館員ハ現在モ出入境ノ際  
滿側官憲ヨリ検査ヲ受ケ居ルカ滿側カ之ヲ嚴重化スル場合ハ赤領館  
員ニ對シ同様ノ處置ニ出スヘシト自ラ警戒スル等聊カ常軌ヲ逸セル  
ニ付當方ハ規則ヲ犯スカ如キ外交代表トノ交渉ハ困難ナリ武領館員  
ニハ絶對ニ違法ノ廉ナク且本件ハ相互的問題ナリ我方ノ意圖ハ相互  
ニ便宜ヲ圖リ以テ斯ノ種關係ノ好轉ヲ希望スルモノナルモソ側ノ破  
壞的遣リ方竝ニ貴方ノ言辭ハソノ招來スルコトアルヘキ結果ニ想到  
シ之ヲ遺憾トスルト共ニ事態紛糾ノ責任ハ貴方ニ在リト應酬シ置ケ  
ル趣ナリ

右報告ス

本信寫送付先

武領、赤領

滿辦、黑辦、綏辦

外務省

(日本標準規格B5)

406-1

電

秘

電信寫

|   |   |   |   |     |   |   |   |   |   |     |
|---|---|---|---|-----|---|---|---|---|---|-----|
| 月 | 日 | 北 | 日 | 燃料局 | 農 | 逓 | 海 | 參 | 要 | 印   |
|   |   | 嶺 | 魯 | 朝   | 林 | 信 | 軍 | 陸 | 換 | (印) |
|   |   | 北 | 北 | 鮮   | 道 | 務 | 務 | 務 | 文 | 付   |
|   |   | 石 | 石 | 總   | 道 | 務 | 務 | 務 |   | ト   |

往武市前領事及副領事ノ二名ニ限リ可能ナ  
 リシ武市前領事ハ十九日中央ノ指令ニ依ルテ突如閉鎖セラレタリ  
 故ニ前々電ハ浦瀨、哈府へ贈送セリ  
 浦瀨ハ哈府前領事ハ無河へ轉送アリタリ

武市 十二月十九日 前發  
 本省 十九日 夜着  
 下村領事代理

下村領事代理

公機密第二一九號

昭和十二年十二月十九日

在黑河

副領事 豊原 幸夫

外務大臣 廣田 弘毅 殿

昭和十二年十二月十九日附在滿大使宛往信寫送附ス  
機密第三五三號

件名

一 武市黑河間今後ノ聯絡問題ニ關スル件

日本標準規格B5

408

外務省

機密第三五三號

昭和十二年十二月十九日

在黑河

副領事 豊原 幸夫

在滿洲國

特命全權大使 植田 謙吉 殿

武市黑河間今後ノ聯絡問題ニ關スル件

最近來黑セル在武市滿洲國市川副領事ト會談ノ際小官ヨリ蘇聯側ハ  
今後トモ在武市滿洲國領事館ト黑河外務局辦事處トノ聯絡ヲ承認ス  
ル意嚮ヲ有シ居ルヤ否トノ質問ニ對シ在武市滿洲國領事及副領事ノ  
ミハ本年十二月末日迄兩地間ノ往復有效查證ヲ取付ケアルヲ以テ前  
記期日迄ハ武黑間ノ聯絡ヲナシ得ルモ其後ノ往復查證問題ニ關シテ  
ハ目下哈爾濱ニ於テ交渉中ニテ在哈蘇聯總領事代理ハ近ク武市ニ前  
外交代表「メイマルク」ノ後任ヲ任命シタル上現地滿洲國領事館ト

日本標準規格B5

409

外務省

話合セシメ本問題ヲ決定セシメ度キ意向ナル旨述ヘタル趣ナルカ未  
ニ蘇側ハ外交代表ヲ任命セサル爲何等交渉ノ途ナキタメ査證ノ切目  
ナル十二月末日後ハ當然兩地間往復交通ハ杜絶ノ已ムナキニ至ルヘ  
シト語り尙在哈蘇聯總領事代理カ言フ如ク蘇側ハ果シテ外交代表ヲ  
急速ニ任命スルヤ否ヤ甚タ疑問ニ屬シ言ヲ左右ニシ今冬結氷期間ノ  
聯絡ヲ絶タシメントスル魂膽ナラスヤニ思料サルル旨附言セリ  
右何等御參考迄ニ報告申進ス

本信寫送付先 外務大臣

哈爾濱 齋々哈爾 滿洲里 綏芬河

外務省

(日本標準規格B5)

410

公機密第二一九號

昭和十二年十二月十九日

在黑河 副領事 豊原 幸夫

外務大臣 廣田 弘毅 殿

昭和十二年十二月十九日附在滿大使宛往信寫送附ス  
機密第三五三號

件名

一 武市黑河間今後ノ聯絡問題ニ關スル件

外務省

(日本標準規格B5)

411

機密第三五三號

昭和十二年十二月十九日

在黑河  
副領事 豊原幸夫

在滿洲國  
特命全權大使 植田謙吉 殿

武市黑河間今後ノ聯絡問題ニ關スル件

最近來黑セル在武市滿洲國市川副領事ト會談ノ際小官ヨリ蘇聯側ハ  
今後トモ在武市滿洲國領事館ト黑河外務局辦事處トノ聯絡ヲ承認ス  
ル意嚮ヲ有シ居ルヤ否トノ質問ニ對シ在武市滿洲國領事及副領事ノ  
ミハ本年十二月末日迄兩地間ノ往復有效査證ヲ取付ケアルヲ以テ前  
記期日迄ハ武黑間ノ聯絡ヲナシ得ルモ其後ノ往復査證問題ニ關シテ  
ハ目下哈爾濱ニ於テ交渉中ニテ在哈蘇聯總領事代理ハ近ク武市ニ前  
外交代表「ノイマルク」ノ後任ヲ任命シタル上現地滿洲國領事館ト

日本標準規格B5

412

外務省

話合セシメ本問題ヲ決定セシメ度キ意向ナル旨述ヘタル趣ナルカ未  
ニ蘇側ハ外交代表ヲ任命セサル爲何等交渉ノ途ナキタメ査證ノ切目  
ナル十二月末日後ハ當然兩地間往復交通ハ杜絶ノ已ムナキニ至ルヘ  
シト語リ尙在哈蘇聯總領事代理カ言フ如ク蘇側ハ果シテ外交代表ヲ  
急速ニ任命スルヤ否ヤ甚タ疑問ニ屬シ言フ左右ニシテ今冬結氷期間ノ  
聯絡ヲ絶タンメントスル魂膽ナラスヤニ思料サルル旨附言セリ  
右何等御參考迄ニ報告申進ス

本信寫送付先 外務大臣

哈爾濱 齋々哈爾 滿洲里 綏芬河

日本標準規格B5

413

外務省

公機密第二二一號

昭和十二年十二月二十二日

在黑河

副領事 豊原 幸夫

外務大臣 廣田 弘毅 殿

昭和十二年十二月二十二日附機密第三五六號在滿大使宛往信寫送附

件名

一、最近武市ノ一般概況ニ關スル件

外務省

日本標準規格B5

414

機密第三五六號

昭和十二年十二月二十二日

在黑河

副領事 豊原 幸夫

在滿洲國

特命全權大使 植田 謙吉 殿

最近武市ノ一般概況ニ關スル件

最近ニ於ケル武市概況ニ關シ當館カ諜知シタル處ニ依レハ本月十二日施行ノ蘇聯邦最高會議代議員選舉後ニ於テモ如何ナル角度ヨリ見ルモ外觀上特ニ變化ヲ認メサル模様ナルカ同地要人タリシ元外交代表「ネイマルク」(元在黑河蘇聯領事代理)及軍團長「バシコフスキ」等ヲ初メ黨及「ソヴェエト」機關要人連ノ多數カ肅正工作ノ犠牲トナリテ以來各種機關ニ現在勤務中ノ要人連其ノ他モ肅正工作ノ嵐カ那邊迄吹キ及フカヲ懸念シ戰々競々トシテ各自不安裡ニ業務ニ携ハリ居ルモノノ如ク物資ハ目下季節ノ關係モアリテ輸送ノ圓滑

外務省

日本標準規格B5

415

ヲ缺キ極度ニ窮乏ヲ來シ市場ニ於テ食糧品トシテ稍々容易ニ購入シ得ルモノトシテハ牛乳下等ノ肉類ニ過キスシテ馬鈴諸其他野菜ノ入手ハ困難ニシテ「パン」モ日日ノ購入機會ヲ逸レハ全ク買フコトヲ得サル状態ニテ衣服類ニ至リテハ市場ヲ始メ市中ノ國營商舖何レニ於テモ販賣スルヲ見ス又タ一部市民中ニハ高價ナル薪炭ヲ購入シ得サル爲メ煖房ノ代用トシテ猫ヲ抱キ寝ニ就クカ如キ極端ナル例モアリテ市民ノ衣食住ニ對スル不安ハ激化シ居ル趣ニシテ蘇聯當局カ對外關係上自國ノ國防ヲ自畫自讚シ國民ニ宣傳スルトモ衣食ノ住ノミヲ念慮シ居ル一般市民ハ斯ル宣傳ニ關心ヲ持シ居ラサルモノノ如シ右報告申進ス

本信寫送付先 外務大臣 齊々哈爾 哈爾賓 滿洲里 綏芬河

日本標準規格B5

外務省

417

公機密第二五三九號

昭和十二年十二月二十三日

在滿洲國

特命全權大使

植田謙吉

外務大臣 廣田弘毅 殿

武市税關ノ佐藤主事手提鞆検査ニ關スル件

本件ニ關シ外務局ヨリ十二月十七日附同局長官宛駐哈特派員發報告寫送付アリタルニ付御參考迄別添送付ス

本信寫送付先 哈爾賓、滿洲里

日本標準規格B5

外務省

416

公機密第二五四一號

昭和十二年十二月二十三日

在滿洲國

特命全權大使

植田謙吉

外務大臣 廣田弘毅 殿

ソ聯官憲ノ武市領事館壓迫ニ關スル件

本件ニ關シ外務局ヨリ十二月十六日附同局長官宛駐武市領事發電報  
寫送付アリタルニ付御參考迄別添送付ス

本信寫送付先 哈爾濱總領事、滿洲里領事

(日本標準規格B5)

419

康徳四年十二月十六日附武市領事發電報寫  
 武市ソ側官憲ノ當領事館ノ壓迫狀況ニ關シテハ屢報ノ通ナルカ本十  
 六日夜左ノ如ク食糧品購入其ノ他種々ノ防害ヲサヘ開始スルニ至レ  
 リ  
 (イ)十二月十日當地(新聞雜誌販賣代理部)ニ於テハ莫斯科發行新聞  
 二部以上ノ豫約ヲ拒否セリ  
 (ロ)十五日地方新聞豫約ノ際武市及ハバロフスク發行機關紙各二部ノ  
 ミノ豫約ハ受付ケタルモ他ハ種類、部類ニ大削減ヲ加ヘラレタリ  
 (ハ)十五日當館員ハ中華民國人コルホズ事務所ニ赴キ野菜ヲ購入シ自  
 動車ニ搬入ヲ終リタル際尾行シ來レルゲ・ベ・ウハ野菜ヲ販賣セ  
 ルコルホーズ員一名(中華民國人)ヲ當館員ノ目前ニテ有無ヲ言  
 ハセス連行セリ今後此種物品ノ購入ハ甚タ困難トナルヘク思料セ  
 ラル

(日本標準規格B5)

外務省



電信寫

秘

|   |   |   |   |   |      |
|---|---|---|---|---|------|
| 北 | 日 | 燃 | 農 | 理 | 〇印   |
| 館 | 魯 | 料 | 林 | 信 | (局長) |
| 北 | 北 | 局 | 業 | 局 | ノ    |
|   |   | 機 |   |   | コ    |
|   |   | 關 |   |   |      |
|   |   | 係 |   |   |      |

99

99

東京 十二月廿七日 午後  
 本館 廿七日 午後  
 田大 侍

田大 侍

三三八八三

廣田外務大臣

第一二七號

武蔵國國府領三國シ二十二日晴夜實特派員公署ヨリ臨時通信ニ  
 對シ中央ノ命令ニ依ル途ヲ以テ原盛抗議スルト共ニ原狀回復方要求  
 セル旨尙保留ハ表附誌ニ附言スヘキ旨等ヘタハ見テリ  
 意、哈爾濱、長河、滿洲里ヘ電達セリ  
 際ヨリ武庫ヘ電達アリタシ

420



秘

心付録  
吉野

電信寫

昭和陸 五四〇〇〇 本官 十二月廿八日 廿八日 夜着

廣田大輔

第一二八二號

陸軍省第一二三六號ニ付シ

在武市及「チタ」海軍省領事ノ後ノ報告ニ依レハ百領事館共  
年度新開陸軍ニ關シ新聞ハ報知者位ヲ領事セラレハ「チタ」  
ニテハ「イズヴェスチヤ」及「ブラウグ」各一部受付（地方新聞中  
ニハ報知ヲ各報館ニテラレタルモノ多ク「チタ」ニテハ報知者ノ  
有及飲料水ノ供給ヲ拒否セラレタル事ニ付テハ何レモ陸軍  
省ニ付テ陸軍中ノ事ナルモ報知者位

秘

公債  
選

電信寫

昭和十一年一月四日午前

本市 四日夜着

廣田外務大臣

第三號

本官發原宛電報

第一號

下村領事代理

h

船員ニテハ船員發病セル爲他船員ヲ派シ外務代表在留時ノ指定  
ヲ船長或ハ私宅ニ訪ヒ百方手ヲ盡シ來診ヲ求メタルモ指定  
巧ミニ船員ヲ送シ其ノ候ハ居所ヲ曉マシ來診ニ出セサル事ナリ  
右ハ官報トシテモ同報ナルヘキニ付外務大臣宛客年往還第一號具  
申ノ事情ヲ併セ御考慮ノ上至急外務代表任命方御督促相成度

外務代表宅ハ其ノ後窓ノ外扉ヲ閉シタル儘空屋トナリ居レリ  
大臣ニ電セリ

秘

通信待

電信寫

|    |     |   |    |     |   |
|----|-----|---|----|-----|---|
| 事務 | 三六八 | 時 | 事務 | 一五六 | 時 |
| 事務 | 一五六 | 時 | 事務 | 一五六 | 時 |
| 事務 | 一五六 | 時 | 事務 | 一五六 | 時 |
| 事務 | 一五六 | 時 | 事務 | 一五六 | 時 |

陸田外務大臣

第一一號

陸田外務大臣

陸田外務大臣  
第一一號  
陸田外務大臣

陸田外務大臣  
第一一號  
陸田外務大臣

陸田外務大臣  
第一一號  
陸田外務大臣

陸田外務大臣  
第一一號  
陸田外務大臣

陸田外務大臣  
第一一號  
陸田外務大臣

陸田外務大臣  
第一一號  
陸田外務大臣



公機密第二號

昭和十三年一月六日

在滿洲國

特命全權大使 植田謙吉

外務大臣 廣田弘毅 殿

駐武市滿洲國領事ニ對スル壓迫ニ關スル件

本件ニ關シ滿洲國外務局ヨリ十二月二十三日附駐哈特派員發電報寫  
送付アリタルニ付御參考迄別添送付ス

本信寫送付先 哈爾賓、滿洲里

外務省

424

日本標準規格B5

祕第一二〇〇號

康德四年十二月二十三日

駐哈爾賓外務局特派員

下村信貞

外務局長官

神吉正一 殿

駐武市滿洲國領事館ニ對スル壓迫ニ關スル件

十二月二十一日上野事務官ソ聯副領事パウロフヲ往訪シ十二月十八  
日附貴電ニ係ル本件ニ關シ先ツ第一項及第二項ニ付武市ニ於ケル既  
往及今次ノ武領新聞購讀ニ對スル制限狀況ヲ説明シ右ノ如キ不法壓  
迫ハ世界ニ類例ヲ見ス當國內ソ聯領事館ノ享受シ居ル好待遇ニ比シ  
雲泥ノ差アリトテソ側ノ不法態度ヲ難詰シ事態改善ノ爲緊急措置ノ  
採用方要求セル處バハ斯ノ如キハ有リ得ヘカラサルコトト思ハルル

日本標準規格B5

外務省

425

カ今次ノ豫約受付拒絶ハ武領ヨリノ豫約申込遅延セルニ因ルモノニ  
非スヤトテ豫約受付ヲ拒絶セラレタル新聞名ヲ質シ當方ハ一部ノ豫  
約ヲ受付ケ大部分ヲ拒絶セルニ徴スルモ手續上ノ問題ニ非スシテ武  
領ニ對スル不法壓迫ノ具現ニ外ナラス新聞名ハ執レ通知スヘキカ先  
ツ敍上ノ如キ武領官憲ノ不法態度ヲ是正スルヲ要スト強調シ次テ前  
顯貴電第三項ニ付右ハ武領館員ノ生活ニ直接的脅威ヲ與フル壓迫手  
段ナリトテ之ニ對シ抗議セル處ハ實狀照會ノ上再論スヘキモ本件  
ハ貴館員ニ對スル物品販賣ノ廉ニ依ルモノニ非スシテ何等カ別ノ原  
因ニ因リシモノニ非スヤト遁辭ヲ構ヘタルニ付當方ハ尾行者ノ遣リ  
方ハ見セシメノ爲ノ露骨ナル壓迫手段ナルコト明白ニシテ今ヤ同地  
官憲ノ執拗ナル凡有壓迫手段ハ武領ノ存續ヲ切實ニ脅威シ居レリト  
難シ事態改善方要求セル處ハ總領事代理ニ傳達スル旨答ヘタル趣  
ナリ

右報告ス

外務省

日本標準規格B5

426

本信寫送付先 武領、赤領、滿辦、黑辦、綏辦

外務省

日本標準規格B5

427

公機密第三號

昭和十三年一月六日

在滿洲國

特命全權大使 植田謙吉

外務大臣 廣田弘毅 殿

駐赤塔滿洲國領事館新聞豫約制限ニ關スル件

本件ニ關シ滿洲國外務局ヨリ十二月二十三日附駐哈特派員發報告寫  
送付アリタルニ付御參考迄別添送付ス

本信寫送付先 哈爾賓 滿洲里

外務省

(日本標準規格B5)

428

祕第一二〇一號

康德四年十二月二十三日

駐哈爾賓外務局特派員

下村信貞

外務局長官

神吉正一 殿

駐赤塔滿洲國領事館新聞豫約制限ニ關スル件

十二月二十二日上野事務官ソ聯副領事ゴルフツオフヲ往訪シ赤塔領  
事館ニ對スルソ側官憲ノ不當壓迫ヲ論難シタル上赤領發長官宛十一  
月二十六日附第三二一號ニ係ル本件ニ言及シ駐在國發行ノ新聞購讀  
ニ迄壓迫ノ手ヲ伸スハ比類ナキ奇現象ナリトテ之ヲ在滿ソ聯領事館  
ノ好待遇ト比較難詰シ適當措置ノ採用方要求セル處ゴハ直チニ豫約  
受付拒絶ノ新聞名及部數ヲ質シタルニ付當方ハ右豫約受付拒絶ニ現  
ハレタルソ聯官憲ノ非友好的態度ノ不當性ヲ指摘シソノ是正ヲ求メ

(日本標準規格B5)

外務省

429

タル上一例トシテライオン紙オトホール紙及エコノミーチエスカヤ  
ジーズニ紙等ノ豫約受付拒絶ヲ引證セル處ゴハラライオン紙ハ各地方  
ニ於ケル局地的新聞ニシテ發行部數ニ制限アルト共ニ購讀者數カ發  
行部數ヲ遙ニ超過スル關係上豫約受付ヲ拒絶セルモノナラン又エコ  
ノミーチエスカヤ・ジーズニ紙ハ改組改名セラレ現在該紙ハ存セサル  
筈ナリト辯明シ當方ハ五ヶ年計畫ノ成功ヲ喧傳スル貴國ニ於テ新聞  
不足ヲ來ストハ不思議ニテ紙飢饉ニ惱マサレ居ルモノナリヤソレハ  
兎ニ角新聞發行部數ニ制限アリトスルモノ一國ノ代表機關タル領事館  
ノ購讀申入ニハ優先待遇ヲ與フヘキモノナルニモ不拘之ヲ態々拒絶  
部分ニ廻ス點ニ貴方態度ノ非友好性存ス又モスコイ發行ノ新聞中イ  
ズベスチャ及ブラウダノ受付部數ニモ極端ナル制限ヲ加ヘタルニ微  
シ貴方ノ形式的説明ハ眞實ニ反スルモノニシテ全然承服シ得ストテ  
當該機關ニ赤塔ノ分ノ豫約受付方指令スル様主張セル處ゴハ外務人  
民委員部ノ權限ハ憲法ニ依リ限定セラレアル爲新聞發行機關ニ對シ

外務省

日本標準規格 B5

斯ル干渉ヲ爲スヲ得ス只貴方申出ヲ中央ニ報告シ得ルノミ尙當館ハ  
牡丹江新聞ヲ購入セントスルモ未タニ入手シ得スト答ヘ當方ハ哈日  
ノ牡丹江版ナライサ知ラス牡丹江ニテ發行ノ新聞アルヲ聞カサルカ  
何カノ勘違ヒニ非スヤ貴領事館ハ申シ分ナキ自由ヲ享受シ居ルヲ以  
テ對抗的苦情ノ材料モナカラント反駁シ便ニ武領ニ對スル不當態度  
ニモ言及論難セルガゴハ所謂憲法ニ依ル權限外ヲ云爲シソノ間諜ニ  
誠意アル措置ニ出スルカ如キ態度見エサリシ趣ナリ  
右報告ス

本信寫送付先 武領 赤領 滿辦 黑辦 綏辦

外務省

日本標準規格 B5



公機密第二五四一號

昭和十二年十二月二十三日

在滿洲國

特命全權大使 植田謙吉

外務大臣 廣田弘毅 殿

ソ聯官憲ノ武市領事館壓迫ニ關スル件

本件ニ關シ外務局ヨリ十二月十六日附同局長官宛駐武市領事發電報  
寫送付アリタルニ付御參考迄別添送付ス

本信寫送付先 哈爾濱總領事、滿洲里領事

外務省

日本標準規格B5

432

康德四年十二月十六日附武市領事發電報寫

武市ソ側官憲ノ當領事館ノ壓迫狀況ニ關シテハ屢報ノ通ナルカ本十  
六日夜左ノ如ク食糧品購入其ノ他種々ノ防害ヲサヘ開始スルニ至レ  
リ

(イ)十二月十日當地(新聞雜誌販賣代理部)ニ於テハ莫斯科發行新聞  
二部以上ノ豫約ヲ拒否セリ

(ロ)十五日地方新聞豫約ノ際武市及ハバロフスク發行機關紙各二部ノ  
ミノ豫約ハ受付ケタルモ他ハ種類・部類ニ大削減ヲ加ヘラレタリ

(ハ)十五日當館員ハ中華民國人コルホズ事務所ニ赴キ野菜ヲ購入シ自  
動車ニ搬入ヲ終リタル際尾行シ來レルゲ。ベ・ウハ野菜ヲ販賣セ  
ルコルホーズ員一名(中華民國人)ヲ當館員ノ目前ニテ有無ヲ言  
ハセス連行セリ今後此種物品ノ購入ハ甚々困難トナルヘク思料セ  
ラル

日本標準規格B5

433

外務省

公機密第四號

昭和十三年一月六日

在滿洲國

特命全權大使 植田謙吉

外務大臣 廣田弘毅 殿

駐赤塔滿洲國領事館ニ對スルソ側ノ不法壓迫ニ關スル件

本件ニ關シ滿洲國外務局ヨリ十二月二十三日附駐哈特派員發報告寫  
送付アリタルニ付御參考迄別添送付ス

本信寫送付先 哈爾濱、滿洲里

外務省

〔日本標準規格B5〕

434

祕第一二〇二號

康徳四年十二月二十三日

駐哈爾濱外務局特派員

下村信貞

外務局長官

神吉正一 殿

駐赤塔滿洲國領事館ニ對スルソ側ノ不法壓迫ニ關スル件

十二月二十二日上野事務官ソ聯副領事ゴルブツオフヲ往訪シ赤領發  
貴官宛十二月二十一日附電報ニ係ル本件ニ關シ赤領ニ對スル同地官  
憲ノ壓迫狀況ヲ説明シ嚴寒耐ニシテ石炭ノ搬入ヲ妨害シ飲料水ノ補  
給ヲスラ拒否セルハ人間ノ生存ニ對スル直接的脅威ニシテソ側官憲  
ノ火攻メノ壓迫ハ今ヤ我館員ヲ如何ニシテ生命ヲ長ラフヘキヤノ切  
實緊急ナル窮狀ニ陥レタリ右ハ事死活ニ係ル人道上ノ問題ニシテ斯

外務省

〔日本標準規格B5〕

435

ル非道ナル不法行為ニ對シ中央ノ命ニ據リ嚴重抗議スルト共ニ至急  
事態ノ改善方措置セラレ度ト述ヘタル處ゴハ石炭ハ運搬ノミニ支障  
ヲ來シ居ルモノナレハ現地ニテ何トカ處置出來サルヤヲ疑フモ早速  
實狀ヲ照會シソノ上ニテ再論スヘク從テ今直チニ貴方抗議ヲ受理シ  
得ス尙自分ハ以前綏芬河ニ於テ食糧ノ購入等ニ迄甚ダシキ壓迫ヲ受  
ケタルコトアリト前綏芬河領事館ニ對スル所謂壓迫ヲ云爲セントセ  
ルニ依リ當方ハ綏芬河ノ件ハ貴官自ラ事實ヲ誇張シテ騒ケルモノナ  
リシカ然ラハソノ報復手段トシテ赤領署メヲ行フモノナリヤ明白ニ  
伺ヒ度又抗議ヲ受理セスト云ハルルモ赤塔ノ實狀判明セハ貴方トシ  
テハ愈々抗議ヲ受理スルノ外ナカルヘク然ラハソノ時ニ到リ輸入ル  
ヨリモ今之ヲ受理傳達スルヲ賢明トス而モ自分ハ中央ノ命令ニ依リ  
總領事代理ニ抗議シ居ルモノナレハ貴官ハ之ヲ拒絶シ得サルヘシ馬  
夫ヲスラ逮捕シテ運搬ノ途ヲ絶チ我方領事館員ヲ火攻メ水攻メニ遭  
ハセツツアル際事態ハ悠長ニモ照會等ト遷延態度ニ出スルヲ許サス

外務省

日本標準規格B5

436

本件ハ一刻ヲ争フ問題ナレハ直接緊急ニ措置有度ト強調セル處ゴハ  
ソ側ニハ報復手段ヲ採ル意ナシト急キ否定シ我方トシテハ先ツ實狀  
ヲ闡明スルヲ要ストテ尙モ抗議ノ受理ヲ拒ミタルニ付當方ハ斯ル人  
道問題ニ對スル貴官ノ冷淡ナル態度ハ之ヲ直チニ中央ニ報告スヘキ  
カ右ハ我方中央ニ甚ダシキ惡印象ヲ與フヘキヲ以テ自分ハ事態ノ成  
行ヲ想見シ貴方領事館ノ將來ニ對シ豫メ氣ノ毒ノ念ナキヲ得ス從テ  
今ニシテ先見ノ明ヲ以テ慎重ニ善處スルヲ賢明トスト反省ヲ促シ置  
ケル趣ナリ

右報告ス

本信寫送付先

赤領、武領、滿辦、黑辦、綏辦

外務省

日本標準規格B5

437

秘

7  
信信品  
協池

電信寫

昭和13 一〇三八 晴

新京 一月十四日發  
本省 十四日發着

廣田外務大臣

第二九號

往電第一一號ニ付シ

廣田大使

歐、重

Ah

十一月十日發着ハ特設公署員ニ付シ中央ノ両河ニ接セル地ヲ以テ武  
庫ノ門門前ノハ政府領ニ係リ其ノ目的トスルモノニアラス全然  
實効的ノ意味ニ依リ尋常的考最ヨリ出テタルモノナルカ其ノ  
ハ直久特ノモノニシテ直久復ハ勿論領事館員ニ付スル海外的  
モ等々ナル旨通ヘタルナリ

給着、廣田、特設館員ニ付シ  
ヨリ武庫ヘ通テアリタシ

厚

(分類)

電信案

勤三 鮫之 外交ハ 承テ 三任 命方ニ 台重トシ  
 則中人 當局ノ 士言ヲ 以テシ 度シ

外務省

(原議用紙乙)

440

|     |                   |               |
|-----|-------------------|---------------|
| 電信案 | 電送第               | 管主            |
|     | 昭和13年1月19日 午後 時 分 | 政三 部長         |
| 外務省 | 件                 | 宛             |
|     | 第一八號              | 廣田 大臣         |
|     | 名件録記              | 發             |
|     |                   | 廣田 大臣         |
|     |                   | 昭和十三年一月十九日 起草 |

電信課發電係

電信課長

439

公普通第一〇九號

昭和十三年一月二十八日

在滿洲國

特命全權大使

植田謙吉

外務大臣 廣田弘毅 殿

石炭飲料水ノ補給ニ關スル件

本件ニ關シ外務局ヨリ十二月二十二日附同局長官宛駐赤塔領事發報  
告寫送付越セルニ付御參考迄送付ス

本信寫送付先 哈爾濱、滿洲里各公館長

日本標準規格B5

外務省

441

康德四年十二月二十二日附外務局長官宛駐赤塔領事發  
報告寫

石炭、飲料水ノ補給ニ關シ折衝ノ件

本件ニ關シテハ去ル十九日石田副領事ヨリ代表代理ニ申入ル處ア  
リタルカク代理ノ約款ニモ不拘同日飲料水購入ノ爲赴キタル備人（  
民國籍）ハ實情説明現金購買方要請（普通タロンナルモ時間ノ關係  
上之ヲ購入シ得ス）セルモ拒否サレ之カ缺乏ヲ來シ更ニ石炭ハ搬入  
サレス電話ニヨル督促鞭撻ニモ不拘何等效果モナク寒氣ニ執務ヲ妨  
害サレルニ至レルニ付昨二十一日日本官ハ石田副領事同行ク代表代理  
ヲ往訪訪上當國政府ノ方針ニ基ク本官ノ事件平和解決方針ヲ説明駐  
哈ソ聯總領事代理クツネツオフノ現地問題ハ現地ニ於テ平和的ニ解  
決シ哈爾濱ヲ煩ハササル様致度トノ言動ヲ傳ヘテ之ニ贊意ヲ表シタ  
ル後兩三日來當館ノ陷入レル窮情ヲ説明人道問題トシテ即急適切ナ  
ル措置方要望セル處ク代理ハ本官ノ問題處理方針ニ満足ト贊意ヲ表

日本標準規格B5

外務省

442

明セル後事情取調ノ上善處スヘキ旨應セルカ飲料水ノ購買ハ兎ニ角  
舊態ニ復セルモ石炭ハ本日ニ至ルモ尙搬入サレサル現状ニアリ  
右報告申進ス

外務省

(日本標準規格B5)

443

公機密第一一〇號

昭和十三年一月二十八日

在滿洲國

特命全權大使 植田謙吉

外務大臣 廣田弘毅 殿

官憲ノ壓迫行爲ニ關シ總括的抗議ノ件

本件ニ關シ外務局ヨリ十二月二十一日附同局長官宛駐赤塔領事發報  
告寫送付越セルニ付御參考迄送付ス

本信寫送付先 哈爾濱 滿洲里

外務省

(日本標準規格B5)

444

康德四年十二月二十一日附外務局長官宛赤塔領事發報告寫

官憲ノ壓迫行爲ニ關シ總括的抗議ノ件

尾行竝ニ館前立哨官憲ノ不當壓迫妨害行爲ニ關シテハ既ニ月報ニ依リ御承知ノ通ナルカスノ種行爲ニ關スル總括的抗議ノ爲去ル十九日石田副領事ハ西北主事同行ク代表代理ヲ往訪當館員ノ現認セルモノミナリト前提ノ上別添覺書ヲ手交抗議シ更ニ口頭ヲ以テ

- 1 十一月二十四日以来ソ籍女中ノ逃亡
- 2 十一月三十日早朝驛頭ニテ(信差出迎ヘノ際)馬夫ニ加ヘラレタル尾行ノ暴力行爲(突飛ス)
- 3 十二月十七日以来馬夫ノ行方不明
- 4 十二月十四日以来驛當局ノブローニ受理拒否
- 5 トランスポート側ノ石炭運搬契約ニ際スルエヌ、カ、ウエレ若クハ市ソヴエイトノ入館許可證要求(市ソヴエイト及外交代表ハ其ノ要ナシト言明シ之ヲ發行セス)

外務省

日本標準規格B5

等ノ事例ヲ指摘シ總テ右カ官憲ノ不當壓迫若クハ其ノ反映ナルヲ論難寒氣峻烈ナル昨今當館ハ燃料ト飲料水ノ缺乏ニ生活ヲ脅威サレアル旨實情説明嚴重抗議ヲ繰返シテ即時適切ナル措置方要請スルト共ニ外國公館カ水火ノ不自由ニ曝サレル如キ情況ハ他國ニ於テ考ヘラレサル旨述ヘソ聯ノ面子上ク代表代理ノ善處ヲ期待シ未タ新京ヘ報告シ非スニ、三日様子ヲ視ルヘシト附言注意ヲ喚起セリ

右抗議ニ對シ副代理ハ免角ノ言動ヲ弄シタル後實情調査ノ上回答スヘク石炭、水ノ補給ニ關シテハ即時善處スヘキ旨約シタリ

次テ當方ハ館用ソ籍使用人カ官憲ノ壓迫ニヨル採用不能及勤續不能情況ヲ指摘ソ側官憲ヨリ適任者男二名女一名至急推薦方要望シ更ニ尾行ノ態度言動ニ關シ

「市ソヴエイトヨリ差遣サレタリト稱スル尾行カ市ソヴエイトノ所在ヲ知ラス館員保護ト稱スル尾行カ館員ノ行動ヲ制禦シ指圖スル等以テノ外ナリ又市長竝ニ其ノ他企業責任者トノ會談ノ際尙無禮

外務省

日本標準規格B5



ニモ席ヲ連ネテ警戒スルハソ聯ノ現情ニ因ル必要ニ基クヤ  
ト責メ無頼漢ノ多キ當市ノ情況ニ鑑ミ移動頻繁ナル尾行ノ寫真ト名  
簿ノ提出カ館員ノ不安除去上必要ナル旨述ヘ之ヲ要求シタルニ對シ  
ク代理ハ使用人ノ推薦竝ニ寫真及名簿ノ提出ニ關シテハ一應市ソヴ  
エートニ通報スヘキモ尾行ノ移動ハ市ノ自由ニアリ且市中ニ於テハ  
安心セラレタシト回答セリ  
ク代表代理ノ折衝態度ハ努メテ獨自ノ見解ヲ避ケ市ソヴエートノ見  
解ニ倚存セントスルモノ明ナルカ本會議ニ對スルソ側ノ誠意如何ハ  
ル代表逮捕ヲ楔期トスルソ側ノ對當館態度ノ動向打診トモナルヘク  
注意中ナリ  
右報告申進ス

外務省

日本標準規格B5

447

覺書

一十月八日コンムントランスヨリ差遣ノ汚物掬取車ハ立哨民警ニヨ  
リ入館ヲ阻止サレタリ  
一十月九日午前十時頃契約ニ基ク修理ノ爲ドームトレストヨリ來館  
セル技手一名竝ニ勞働者二十名ハ立哨民警ニヨリ追還サレタリ  
一十月十七日早朝ドームトレストヨリ差遣サレタル修理勞働者ハ立  
哨民警ニヨリ阻止サレタリ  
一十月二十三日午前十時頃午後二時頃ノ二回ニ亘リ新聞廣告ニ應募  
就職ノ爲來館セル婦女子等ハ立哨民警ニヨリ追放レタリ  
一十月二十九日朝當館備人ニ對シ一尾行ハ「未タ領事館ニ勤務スル  
ノカ」ト脅迫的言動ヲ弄セリ  
一十一月四日午前十時頃電燈廠ヨリ派遣ノ修理取付工夫二名ハ立哨  
民警ノ爲入館ヲ阻止追返サレタリ  
一十一月十九日ドームトレストヨリ派遣ノ勞働者一名立哨民警ニヨ

外務省

日本標準規格B5

448

リ入館ヲ拒否サル

外務省

日本標準規格B5

449

公機密第二三二號

昭和十三年二月二十四日

在滿洲國

特命全權大使

植

田

謙

吉

外務大臣 廣田弘毅 殿

滿蘇間懸案ニ關スル龜山政務處長「クツネツ  
オフ」駐哈蘇聯總領事代理ノ會談録送付ノ件

本件ニ關シ外務局ヨリ二月十日附同局長官宛駐哈特派員發報告寫送  
付越セルニ付御參考迄別添送付ス

本信寫送付先 哈爾濱

外務省

日本標準規格B5

450

滿ソ間懸案ニ關スル龜山處長及「クズネツオフ」  
ソ聯總領事代理會談録

第一日（一月二十六日午後三時ヨリ八時マテ）

龜山 滿ソ間ニハ懸案尠カラサルカ必スシモ全部解決不可能ナルモノニ非スト思惟スルニ付テハ今次本官來哈ノ機會ヲ利用シ貴總領事代理ト出來得ル限りソノ解決ヲ計ルコトト致度

ク 同感ナリ喜ンテコノ機會ヲ利用シ相互ニ解決致度

龜山 然ラハ早速議題ニ移ルコトトスヘシ

實ハ在赤塔、武市領事館ニ對スルソ側ノ態度ニハ遺憾ナル點甚タ多ク右ニ關シ同領事館ヨリ頻々トシテ報告ニ接シ居ル處右ニ依レハ我カ領事館員ノ日常生活スラ脅威セラレ居ル狀態ナリ例ヘハ往々石炭、ガソリン等ノ配給ヲ停止サレ、又館員病氣ノ際醫師ノ來診ヲ求ムルモ之ヲ拒絕セラレ又ベチ力等ノ暖房裝置破損スルモ容易ニ修理ニ應セス斯ノ如ク館務ノ遂行ハ勿論日常生活

外務省

（日本標準規格B5）

活スラ極メテ困難ナル狀態ニ在リ仍テ貴我兩國親善ノ爲ノ大局的見地ニ着眼シ我カ領事館ノ立場ヲ諒解シソ聯當局ノ態度ヲ改善セシムル様是非トモ貴官ノ盡力方願度

ク

貴方領事館ヨリノ報告ハ殆ント不確實ナリ斯ノ種問題ニ關シテハ上野事務官及佐藤屬官ヨリモ申出有之タルモ中央及現地官憲ノ調査ニ依レハ殆ト事實無根ナリ具体的ニ言ヘハ先般上野事務官ヨリ申出ノ（一）赤塔領事館ノ馬夫逮捕事件ハソ聯官憲カ同人ヲ逮捕セルニ非ス本人カ病氣ノ爲四日間缺勤セルモノニシテ第五日目ヨリ從前通り出勤シ居レリ（二）石炭ノ一時配給中止ハ恐ラク其ノ當時生憎運送機關不足ノ爲已ムヲ得ス配給シ得サリシモノニシテ斷シテソ聯官憲ノ故意ニ依ル配給中止ニ非サリシモノト信ス（三）醫師ノ不派遣云々ニ關シテハ實ハ最初依頼ヲ受ケタル醫師カ手續ヲ如何ニスヘキヤヲ知ラサリシ爲即時往診セサリシ事實アルモ其後兎モ角病人ニ對シ援助ヲ與ヘタリ（四）ガソリンヲ

外務省

（日本標準規格B5）

配給セス云々ハ全々事實無根ナリ  
右ノ如ク貴方領事館カ事實ヲ有ノ儘報告セサル爲相互ニ面白カ  
ラサルコトト成ルニ付今後ハ事實ト一致スル如キ報告ヲ爲サシ  
ムル様是非貴處長ヨリ注意ヲ與ヘラレ度

龜山

本官ノ述ヘタル處ハ全部事實ナリ我方領事館ハ絶對ニ事實無  
根ノ報告ヲ爲ササルモノト信ス例ヘハ醫師不派遣ノ如キハ目下  
歸國中ノ我カ領事館員カ其ノ確實性ヲ證明スルコトヲ得但シ部  
分的ニハ爾後ソ側ノ援助ニヨリ辛シテ救済シ得タルモノアルヤ  
モ知レス

ク

例令報告カ全部事實無根ニ非ストスルモ小事件ヲ針小棒大ニ  
報告スル傾向アルハ確實ナリト思料ス例ヘハ醫師不派遣ノ件ニ  
關シテハ自分トシテモ大イニ關心ヲ持チ中央ニ調査方要請スル  
ト共ニ自ラ現地トモ連絡セル處事實ハ前述ノ如シト前言ヲ繰  
返ス其ノ他ノ事件ニ關シテハ余ハ餘リ詳シキコトヲ承知シ居

外務省

日本標準規格B5

ラス然ルニ壓迫ナル言ハ寧ロ滿側ノ在滿ソ聯領事館ニ對スル滿  
側態度ノ形容詞ナリ右ハ我方カ何故在綏芬河領事館ヲ閉鎖シタ  
ルヤヲ想起セハ極メテ明瞭ナリ滿側ノ在綏芬河ソ聯領事館ニ對  
スル壓迫ニ付テハ再三駐哈特派員宛抗議セルモノソ都度絶對ニ  
壓迫ノ事實ナント拒否的の回答ニ接セリ然レ共其ノ當時綏芬河ニ  
於ケル滿側官憲カソ聯鐵道従業員ト同地ソ聯領事館トノ連絡ヲ  
許ササリシ際特派員公署ハ事實ヲ否定セルモ綏芬河外務局辦事  
處長ハ之ヲ許可セサル旨明言セルカ右ニ依ツテ見ルモノ側ハ滿  
洲國領事館ニ對シ何等壓迫ヲ加ヘサルニ反シ滿側ハソ聯領事館  
ヲ酷ク壓迫シ居レリ

外務省

日本標準規格B5

龜山 在綏芬河ソ聯領事館閉鎖問題ニ關シ我方ハ右ハソ側カ領事館ノ同數ヲ主張スル爲自發的ニ閉鎖シタルモノト了解シ居レリ兎ニ角本官ノ希望ハ兩國カ相互ニ相手方ヲ非難シ合フヲ熄メソ側態度ノ改善ニ依リ不愉快ナル誤解ヲ除去シ以テ兩國ノ親善ヲ圖ラントスルニ在リ仍テ右ノ趣旨ニ基キ是非左記ノ諸問題ニ付キ盡力方希望ス

- (1) ソ側ハ我方在ソ領事以下全館員ニ對シ總テ制服若クハ便衣ノ警官ヲ以テ露骨ナル尾行ヲ行ヒ居リ甚シキニ至リテハ館員ノ自由ヲモ拘束シ居ル處右ハ是非廢止セラレ度
- (2) 自動車ハ領事館唯一ノ交通機關ナルニ付是非ガソリンヲ配給セラレ度尙飲料水ノ配給ニ付テモ同様ナリ
- (3) 武市ニ於テソ聯當局ハ我方領事館ニ對スル野菜類ノ販賣ヲ苛酷ナル遣リ方ヲ以テ防遏シ居レリ即チ我方館員ノ野菜購買ニ對シ直接ニハ干涉セスト雖モ館員ニ野菜ヲ賣ル者ヲ逮捕スル

日本標準規格 B5

455

外務省

456

- 爲目前ニ野菜アルモ之ヲ購ヒ得サル状態ナルニ付是非斯ル状態ヲ改善セラレ度
- (4) 暖房装置ノ修理ヲ依頼スル場合三、四日ヲ經過スルモ修繕工來ラス後調査スルニ領事館前ノゲ・ペ・ウカ修繕工ノ入館ヲ阻止シ居レル事實判明セリ斯ノ如キ壓迫行爲モ兩國親善關係増進ノ見地ニ着眼シ改善セラレ度
  - (5) 最近我方領事館員ニ對シ列車乗車券ヲ販賣セサル事實アリ即武領ニ連絡ニ赴ケル赤塔松永副領事ハ乗車券ヲ購入シ得サル爲武市ニ立往生シ居レリ就而ハ是非從來ノ通我方領事館員カ自由ニ乗車券ヲ購入シ得ル様取計ハレ度
  - (6) 在武市ソ聯外交代表不在ノ爲現地ニ於テ旅券査證ヲ取付ケ得サルコトトナリ館員ハ歸國不能ニ陥リ從ツテ新京武市間ノ連絡ハ全然不可能トナレルニ付外交代表ノ不在中ニモ代理者ヲ指定シ隨時査證ヲ取付ケ得ル様貴官ノ盡力方依頼ス

日本標準規格 B5

外務省

(7) 武黒間ノ交通遮断ニ因リ新京武市間ノ連絡ハ一層困難トナレ  
ルカ我方ハ在滿ソ聯領事館ニ對シテハ一般通行禁止區域タル  
滿洲里國境地帶通過ノ定期通行證ヲ發給シ居レルヲ以テ(滿  
洲里領事ハ右定期通行證ニ依リ月三十九回出入境セル事例アリ)  
我方在ソ領事館ニ對シテモ同様ニ定期通行證ヲ發給セラ  
レ度

(8) 御承知ノ通りソ聯國內ニハ食料品極メテ缺乏シ居リ又日滿人  
ノ生活ハソ聯人ト全然趣ヲ異ニスル爲是非本國ヨリ食料品其  
ノ他ノ物資ヲ輸入セサルヘカラサルニ付武市赤塔各領事館ニ  
各六萬留ノリミット許可方至急中央ニ請訓セラレ度以上貴官  
ノ援助盡力ニ依リ右ノ諸件ヲ可及的速ニ圓滿ニ解決致シ度  
(1) 在綏芬河ソ聯領事館ノ閉鎖ニ關スル意見ニ對シ余ハ全然贊  
成シ得ス同館ノ閉鎖理由ハ館務遂行不可能トナレルニ在リ  
即チ滿側官憲ヨリノ壓迫ニ堪ヘス特派員ニ對シ滿側態度ノ

外務省

(日本標準規格B5)

458

改善方屢次抗議セルモ何等效果ナカリシニ因リ已ムヲ得ス  
之ヲ閉鎖セル次第ナリ

(2) ガソリン問題ハ極メテ小問題ニ過キス斯ノ如キ小問題ヲ報  
告スル如キハカ妥當ヲ缺クモノト思フ例ヘハ昨年九、十  
月頃駐哈ソ聯總領事館モガソリン購入難ニ陥レルコトアリ  
シカ當方ハ之ヲ些少ノ問題トシテ特派員ヲ煩ハスコトナク  
自ラガソリン入手ノ方法ヲ講シタリ假リニ在ソ滿洲國領事  
館カ一時ガソリンノ不足ヲ感シタリトスルモ右ハ概ネ運送  
機關ノ不足ニ起因スルモノニシテ斯ノ如キハ頗ル微小ナル  
問題ニ過キス

(3) 武市ニ於ケル貴領事館員ニ對スル野菜販賣者逮捕云々ノ如  
キ事實絕對ニ無シ假リニ偶々逮捕事件惹起セリトスルモ右  
ハ別個ノ理由ニ因ルモノニシテ斷シテ貴方領事館ニ對スル  
野菜販賣ノ廉ニ依ルモノニ非スト信ス又余ハ斯ル事實ヲ確

外務省

(日本標準規格B5)

457

認スルカ如キ何等ノ通知ニ接シ居ラス右ニ關連シ余ハ直チニ綏芬河ソ聯領事館ニ對スル滿側ノ壓迫ヲ想起スモノナリ同地ニ於ケル滿側官憲ハ一般民衆ノソ聯領事館ニ對スル物品販賣ヲ露骨ニ干涉セリ同地外務局辦事處長ハ曾テソ聯領事館ニ對シ「特定ノ商店以外ニ於ケル物品ノ購買ヲ許サス」ト言明セルコトアリ又右指定商店ニ於ケル物品購買ノ際ハ常ニ警官一名尾行シ購入物品ヲ館員ノ面前ニ於テ検査セリ(4)ベチカノ修繕ニ付テハ余モ深甚ナル注意ヲ拂ヒ中央及ヒ現地ニ右調査方依頼セルカソノ結果昨年既ニ修繕ヲ行ヘルモ只貴方領事館ト修繕機關側トノ間ニ右費用ノ支拂ヲ繞リ紛議發生セルタメ後者ハ其ノ後前者ノ修繕依頼ニ應セサリシコト判明セルカ右ハ何等官憲ノ壓迫ニ因ルモノニ非ス私見ニ依レハソ聯ノ如キ寒國ニ於ケルベチカ破損ノ場合何等ソノ修理ヲ妨クルカ如キコトハ有リ得ス。申込ヲ受ケタル後

(日本標準規格B5)

459

外務省

假ニ第一、二日目ニ修繕工來ラサルコトアリトスルモ概ネ第三日目ニハ必ス工夫出頭スル筈ナリ然ルニ貴領事館側ハ餘リニ性急ニ過キ修繕工カ第一日目ニ來ラサル場合直チニ之ヲ中央ニ報告スルヲ常トス斯ノ如キハ餘リ面白カラサルモノト思惟ス

(日本標準規格B5)

460

外務省

龜山

武市滞在中ノ松永副領事ハ日本領事館ノ世話ニ依リ乗車券ヲ入手セル旨只今電報ニ接セリ

ク  
(5) ソ聯ニハ現在ブローニナル特殊制度存セス外國領事館員ニ對シテモ一般人民ト同様ニ乗車券ヲ販賣シ居ルカ何故日本領事館ノ斡旋ニ依レハ乗車券ヲ購ヒ得ルヤニ注意セラレ度換言セハ何故日本領事館カ乗車券ヲ入手シ得ルニ不拘滿洲國領事館ハ之ヲ爲シ得サルヤソ聯ハ日本滿洲國及中華民國ノ孰レニ對シテモ全ク同様ノ待遇ヲ與ヘ居ル處滿洲國領事館ノミカ乗車券ヲ購入シ得スト云フハ同館ノ不注意乃至努力ノ足ラサルニ因ルモノニ外ナラスト思料ス

(6) 駐武市ソ聯外交代表不在中ニ於ケル査證ノ發給方ニ就テハカズロフ氏カ外交代表ニ任命セラレ近ク着任スル旨(或ハ既ニ離莫セルヤモ知レス)昨夜半(一月二十六日夜)電報ニ接セルヲ以テ同代表ノ着任ニ依リ本件ハ解決スヘシ

外務省

日本標準規格B5

461

(7) 武黒間ノ交通遮斷問題ニ關シ武市税關検査所ハ滿洲國領事館開設以前ヨリ設置セラレアルモノニシテ右ハ一般貨物ノ輸出入及旅客ノ出入國等ノ際ニ於ケル検査ヲ目的トスルモノナリ然ルニ近來武黒間ニ於ケル斯種ノ出入激減シ業務皆廢ノ状態ニ立至レル爲同所ヲ廢止セル次第ナルカ右ハ全クソ聯限リノ内政問題ニシテ反滿的ノモノニ非ス而シテ將來右關門ノ再開ハ絶望ナリト思惟スルニ付武市滿洲國領事館及新京間ノ連絡ハアトポール經由及其ノ他ノルートニ依ルヘキモノト思フ尙貴官ノ武黒間交通復活方ノ御希望ハ之ヲ中央ニ報告スルモ恐ラク何等效果ナカルヘシ

(8) 食料品ノ輸入問題ニ關シ昨年武市赤塔各領事館ニ對シ既ニ各二萬四千留宛ノ輸入許可セラレタルカ右ハソ側ノ好意ヲ物語ルモノナリ各領事館ニ六萬留宛リミットヲ許容スヘキ旨ノ貴官ノ要求ハ不可解ニテ斯ル巨額要求ヲ中央ニ報告シ

外務省

日本標準規格B5

462



請訓ヲ仰クトモ中央ハ之ヲ許容スル善ナシ然レ共私見ニ依  
レハ年二萬五千留程度ノリミットハ不可能ニ非スト思考ス  
實ハ此ノ問題ニ關シ屢々中央ニ請訓セル處余ハ却テ中央ノ  
不滿ヲ買ヘリ即チソ側ノ對滿未解決要求山積シ居ルニ不拘  
何故自國ノ要求解決ヲ閉却シ他國ノ要求ノミ請訓スルヤ他  
國ノ要求ヲ請訓スルニ先立チ自方ノ多數懸案ヲ解決スヘシ  
トノ注意ヲ受ケタリ

- 事實滿ソ側ノ要求事項ハソ側ノ五ニ對シ滿側ノ夫ハ一ノ割  
合ニシテソノ解決數モ殆ント同率ナリソ側ノ未解決要求中  
比較的重要ナルモノヲ列擧シ貴官ノ御盡力方要請セントス
- (1) ソ聯籍北鐵年金受領者一名目下在獄中ナリ
  - (2) 去年十二月十九日ソ聯飛行機一機(郵便旅客機ニシテ軍用  
機ニ非ス)浦潮ヨリハバロフスク向ケ飛翔中針路ヲ誤リ已  
ヲ得ス滿領高嶺子ニ不時着セルカ爾來既ニ一ヶ月以上ヲ經

外務省

(日本標準規格B5)

463

- 過セル今日滿側ハ未タニ調査中ト稱シ居ル處茲ニ貴官ノ注  
意ヲ促シ度ハ昨年日本軍用機一機ソ聯領内ニ不時着セル際  
ソ側ハ十日ヲ出テスシテ之ヲ解決セルコトナリ
- (3) 舊齊々哈爾ソ聯領事館用敷地ハ滿洲國官憲ニ依リ沒收セラ  
レタルカ今日ニ至ルモ未タニ解決ヲ見ス
  - (4) 哈爾濱商務學校父兄會ノ建物ハソ聯領事館ニテ買ヒ取レル  
モノナルカ白系露人ニ横領セラレ未タニ未解決ノ儘ナリ
  - (5) 査證問題ニ關シ上野氏ヨリ常ニ佐藤屬官ノ査證許可方督促  
ヲ受ケ居ル處佐藤屬官ノ査證要求ハ昨年十二月ニ提起セラ  
レタルモノナルカソ側ハ昨年十月要求セル分ニ付キテスラ  
未タニ滿側ノ許可ヲ受ケ居ラス
- 兎ニ角ソ側ノ諸要求中解決ヲ見タルモノ殆ント皆無ナリ若  
シ有リト云ハハ只一ツノミ即チ黑龍江ニテ滿側ニ擊沈セラ  
レタルソ聯砲艇ノ引渡問題之ナリ尙本件ハ一應解決ヲ見タ

外務省

(日本標準規格B5)

464

リト雖モ其ノ解決振ハ頗ル不徹底ノモノナリ  
 (6) 定期通行證ノ問題ニ關シ貴官ハ滿洲側ハ在滿洲里ソ聯領事館員ニ對シ定期通行證ヲ四枚發給シア旨述ヘラレタルカ在武市滿洲國領事館ハ定期通行證十枚ヲ有シ居リタリ滿洲里ニハ三百ノ鐵道工人在住シ居ル處彼等ノ地位ハ極メテ重要ニシテソ聯領事館トシテハ全力ヲ以テ彼等ヲ援助セサルヘカラサル立場ニ在リ從テ滿洲里ニ於ケル通行證廢止ハ甚タ危險ヲ伴フ措置タルコトニ注意セラレ度

日本標準規格B5

外務省

龜山

(1) 在綏芬河ソ聯領事館閉鎖ノ件ハ過去ノ問題ナルヲ以テ繰返シ言及スル必要ヲ認メス其他醫師派遣火房裝置修理列車乘車券購入及石炭ガソリン配給等ノ問題ハ事小ナリト雖モ其ノ影響スル處極メテ甚大ナルニ付是非事態ノ改善方盡力セラレ度  
 (2) 尾行ノ問題ニ關シテハ回答ナキカ是非之ヲ撤廢セラレ度  
 (3) 武市關門ノ閉鎖ニ付我方ハ一般交通ノ再開ヲ要求シ居ルモノニ非スシテ在武市滿洲國領事館員ノミニ對シ自由通行許容方要求スルモノナリ只今貴官ハ武市領事館員ハアトボール其ノ他ヲ經由セハ可ナリト云ハレタルカ右ハ武領館員ニ對シ定期通行證ヲ發給スルトノ意味ナリヤ若シ斯ル意味ナラハ當方ハ武黑間交通復活迄ノ臨時辦法トシテ定期通行證ニ依リテ滿洲里及其他ノル<sup>新奉線</sup>トヲ經由スルコトトシ差支ヘナキカ之ト共ニ( )月二回ヲ最少限度トス)ノ至急實現方是

日本標準規格B5

外務省

非盡力有度

(4) 食料品輸入問題ニ付テハ前述ノ如クソ聯ニ於ケル物資ノ缺乏及生活様式ノ相違ニ鑑ミ是非各領事館ニ對シ年六萬留ノリミット許可方盡力セラレ度右ノ外領事館員入ソノ際ノ食料品等ノ搬入ハ無論自由タルヘキモノナリ

(5) 在ソ領事館ノ通行證十枚所持云々ニ關シ現在滿側ハ實際上通行證ヲ一枚モ所持シ居ラス然ルニ滿側ハ滿洲里ニ於テソ聯鐵道乗務員ニ對シテモ六枚ノ無記名式通行證ヲ發給シ居レリ又領事館員ト鐵道從業員トハ全然別個ノモノナルヲ以テ絕對ニ兩者ノ混同ヲ避ケラレ度

(6) 滿側ニ逮捕中ノ舊北鐵年金受領者ノ年金受領委任手續ニ關シテハ本月二十八日日本夫妻カ所要ノ證明書類ヲ入手シ得ル様當署ニ於テ手配セルニ付時間ト場所ハ追テ通知スヘシ

(7) 滿側ハ黑河ニ於テソ聯人四名ヲ抑留セルカ一方ソ側ニ抑留

(日本標準規格B5)

外務省

サレタル滿人十二名アルニ付テハ相互的ニ右全部同時ニ釋放シ以テ本件ヲ根本的ニ解決シ度キカ右ニ對スル貴見如何

(8) ソ聯飛行機ハ法律ニ違反シ我カ特別地帶上空ヲ飛翔シ當國領内ニ着陸セルモノナルニ因リ目下慎重ニ取調ヘ中ナリ尙其ノ内容ニ付テハ言明ノ限りニ非サルモ可及的速カニ解決シ得ル様盡力スヘシ日本軍用飛行機ニ付テハ回答ノ要ヲ認メス

(9) 舊齊々哈爾ソ聯領事館敷地ニ關シ我方ハ之ヲ滿洲國固有財産ト認ムルモノナルカ若シ貴方ニ於テ其ノ所有權ヲ主張セララルナラハ根據トナルヘキ證據ヲ提出セラレ度ソノ上ニテ本件解決方考慮スヘシ

(10) 商務學校父兄會ノ建物ニ付テハ目下登記ニ關シ法院ニ繫屬中ナルカ貴方ニテ其ノ所有權ヲ主張セララルナラハ合法的手續ヲ踏ミ法院ニ提訟セラレ度

(日本標準規格B5)

外務省

至急解決セラレ度

(II) 査證問題ニ關シ貴官ハ昨年十月以來滿側ヨリ査證ノ許可ヲ受ケ得サル旨述ヘラレタルカ我方ニハ昨年八月以來未タニソ側ヨリ査證ヲ受ケ得サルモノアリ尙本件ニ付我方ニ云ヒ分極メテ多シ

(イ) 佐藤屬官ノ武市派遣ハ武黑間交通遮斷ニ因ル外交信差トシテノ連絡ヲ目的トスルモノニシテ一般ノ査證トハ全然性質ヲ異ニスルモノニ付是非先ツ右査證ヲ發給セラレ度

(ロ) 右ニ對スルソ側査證遅延ノ關係上佐藤屬官派遣ニ先立チ武市領事館佐藤主事ヲ既ニ許可済ノ吉川屬官ト共ニ至急赴武セシムルニ付右兩名ニ對シ是非直チニ査證ヲ交附セラレ度

(ハ) 泉副領事及佐藤屬官ハ同道ニテ入ソセシムルニ付兩氏ノ査證ヲ同時ニ發給セラレ度

以上ノ査證ハ新京武市間連絡ノ爲メ外交信差トシテ必要ニ付

ク 第二日（一日二十七日午前十時半ヨリ午後六時マテ）

一、ソ聯籍舊北鐵従業員ノ年金ニ付テハ問題ハ目下逮捕中ノ一  
ソ聯人ノ分ノ年金受領手續ノミニ非ス實ハ昨年一月以來年金  
支拂停止中ノソ聯人約千六百人アリ先般上野事務官ヨリ年金  
ノカビタリゼーションニ關シ提議アリタルニ付請訓セル處ソ  
側中央モ右ニ同意ナル旨回答ニ接セルヲ以テ右同氏ニ回答セ  
リ上野氏ハ右ソ側ノ意向ヲ中央ニ報告セル旨語レルカ本件未  
タニ解決ヲ見サルカコノ際年金不拂ノ理由ヲ伺ヒ度  
二、昨日貴官カ滿人十二名抑留中ナル旨述ヘタルニ對シ余ハ大  
イニ喫驚セリ右ニ關シ余ノ知レルハ二、三名ナルカ十二名ト  
ハ初耳ナルニ付テハ具体的ニ説明願度  
又ソ側ノ滿人抑留原因ハ總テ越境及其他ノ不法行爲ナルニ反  
シ黑河ニ於テ逮捕セラレタルソ聯人四名ハ何等不法行爲ヲ犯  
シタルモノニ非ス寧ロ同人等ノ逮捕ハ滿側ノ不法行爲ト言ヒ

外務省

（日本標準規格B5）

得ヘク滿側カ漂着ソ聯人ヲ逮捕セルノミナラスソ聯ノ國旗ヲ  
破損セルハ誠ニ遺憾ニ堪ヘス又漂着ソ聯人ノ返還方駐哈特派  
員ニ抗議セルモ今日ニ至ル迄無結果ニ終リ居レリ若シ貴官カ  
双方相互的ニ釋放スル旨提議セラルルナラハ右十二名ニ付具  
体的ニ通知セラレ度

三、滿側ニ抑留サレタルソ聯飛行機ハ郵便機ニシテ軍用機ニ非  
ス而モ搭乗者及一萬一千通ノ搭載郵便物アリ然ルニ滿側ハ昨  
年十二月十九日抑留以來今尙ホ調査ニ籍口シテ右返還ニ應セ  
ス日本軍用機ノ件ニ關シテハ回答ノ要ナシト云ハルルモ前述  
ノソ聯飛行機ハ日本軍之ヲ抑留シ哈爾爾へ運搬ノ上當地日本  
陸軍特務機關ノ手ニ移レリ從テ本件ハ盡ク日本軍ト關係ヲ有  
スルモノナリ若シ滿側カ回答ヲ爲シ能ハサルモノナラハ駐日  
ソ聯大使ニ於テ日本政府ニ交渉スヘキカ貴見如何？  
四、舊齊々哈爾ソ聯領事館敷地ニ關シ滿洲國當局ノ措置ハ實ニ

外務省

（日本標準規格B5）

如何ナル國家ニ於テモ類例ヲ見サル底ノモノナリ例ヘハ右ハ  
或者カ街ニテ無理ニ他人ノ外套ヲ強奪シ相手方カ外套ノ所有  
權ヲ主張セハ反對ニソノ所有權ノ證明書提示方要求スルト同  
斷ノ行爲ニ非スヤ尙當方ニモ該敷地所有權ノ證明書ハ無キニ  
シモ非ス即チ一九二九年露支紛争ニ因ル同領事館本國引揚ノ  
際領事館建物ヲ中華民國官憲ノ保護ニ委託セル處(イ)右ニ關シ  
中國官憲ヨリ保管證明書ノ交附ヲ受ケタルカ(ロ)右紛争終熄後  
同地領事館再開ノ際復中國官憲ヨリ領事館建物返還證明書ヲ  
受領セリ右ニ依リ明瞭ニ本件所有權ノ歸屬ヲ立證スルコトヲ  
得

五、商務學校父兄會ノ建物ハ父兄會カ之ヲソ聯總領事館ニ讓渡  
セルモノニシテ當方ハ右ニ相當スル證明書類ヲ所持ス然ルニ  
一昨年白系露人、警察及日本陸軍特務機關等カ之ヲ橫領セル  
ニ因リ法院ニ起訴セル次第ナリ法院ハ未タニ言ヲ左右ニシテ

外務省

日本標準規格B5

473

判決ヲ下サス從テ合法的手段ヲ踏ミ法院ニ提訴スヘシ云々ノ  
貴言ハ満足ナル回答ト認メ得ス  
以上ノ諸問題ハ滿ソ兩國關係ニ甚大ナル影響ヲ齎スヘキ重要問  
題ナリ特ニ北鐵従業員年金不拂問題及ソ聯飛行機抑留問題ニ對  
スル満足ナル回答ナキ限り滿ソ間ノ一切ノ問題ハ全部解決不可  
能ナリ若シ貴官カ滿ソ間懸案ノ解決ヲ圖ル誠意アラハ先ツ前記  
諸問題ヲ解決セサルヘカラス

外務省

日本標準規格B5

474

六、在ソ滿洲國領事館ニ對スルソ側態度ニ關シ舊綏芬河ソ聯領事館ニ對スル滿側ノ壓迫行爲ハ既ニ過去ニ屬スト雖モ余ハ重ネテ之ニ言及セサルヲ得スソ側ノ滿洲國領事館ニ對スル態度ハ滿側ノ對綏芬河ソ聯領事館態度程苛酷ニ非スト思惟ス  
列車乗車券、石炭、ガソリン等ノ如キ小問題ニ付テハ貴領事館ニ對シソノ報告振リニ注意スル様傳令セラレ度斯種小問題ハ能フ限リ現地ニ於テ解決スル如クセハ可ナルコトニシテ逐一中央ニ報告スルニ及ハサルモノト思考ス  
七、尾行ニ關シテハ余ハ詳報ヲ有セス假リニ尾行ノ事實有リトスルモ滿側程酷カラサルモノト思フ例ヘハ本官外出ノ際ハ不斷ニ一、二人尾行シ居リ活動寫眞見物乃至理髮ノ際モ例外ナシ右ハ本官ノミナラス其他ノ館員ノ外出時ニ於テモ同様ナリ又甚タシキニ至リテハソ聯人カソ聯領事館ヲ退去スル際警官ハ露骨ニ既等來館者ヲ検査シ居レリ

外務省

(日本標準規格B5)

475

領事館員ノ行動自由云々ニ關シ在ソ滿洲國領事館員ハ行動ノ自由ヲ有スルモノナルカ但シ昨年一滿洲國領事館員カ立入禁止區域ニ入り而モソノ態度極メテ不遜ナリシタメ國外ニ追放セラレタルコトアリシハ同館員ノ非ニ因ルモノニシテ之ヲ以テソ側ノ壓迫ト言フヲ得ス  
八、武市領事館員ノミニ對スル武、黑間通行ノ許可ハ現在ハ勿論將來ニ於テモ望ミナシ  
九、武市、赤塔各領事館ニ年六萬留ノリミットヲ許可スヘシ云々ノ要求ハ中央ノ意向不明ナルモ私見ニ依レハ恐ラク見込ミナキモノト思料スルカ二萬五千留程度ノ許可ハ可能性アルヤモ知レス  
又ソ聯内ニ於ケル食料品ノ缺乏云々ニ付右ハ根據無キ言辭ニシテ余ノ承認シ得サル處ナリ  
十、在ソ滿側領事館ノ通行證ニ關シ武黑間連絡ノ際滿側カ十枚

外務省

(日本標準規格B5)

476



ノ通行證ヲ利用シ居リシ當時ニ於テ在滿ソ聯領事館ハ通行證  
三枚ヲ有シタルニ過キサリシニ不拘ソ側ハ相互的ニ同數十枚  
發給方要求シタルコトナキニ非スヤ

十一、領事館ト鐵道トヲ混同スヘカラサル旨御注意アリタルモ  
余ハ決シテ混同シ居ルモノニ非ス然レ共ソ聯領事館ハ全力ヲ  
舉ケテ鐵道運營ヲ援助スヘキ立場ニ在ルモノニシテ若シ滿側  
カ鐵道運輸ヲ妨害セハ國際鐵道連絡運輸ニ重大ナル影響ヲ生  
スル虞アル旨茲ニ正式ニ警告スルモノナリ

以上ハ重大ナル問題ニシテ若シ右解決スルヲ得ハ爾餘ノ問題  
モソノ解決困難ニ非スト思考ス但シ茲ニ解決トハ具體的解決  
ノ意ニシテ決シテ調査中云々ト言フカ如キ意味ニ非ス

十二、査證問題ニ關シソ側ノ發給スヘキ査證ハ常ニ急速ニ解決  
スルニ反シ滿側ノソレハ延引ヲ事トス又昨年以來滿側ハ査證  
全般ニ亘リ相互主義ヲ固執シ來レリ例ヘハ昨年一ソ聯副領事

外務省

(日本標準規格 B5)

477

カ外交信差トシテ歸國スル際滿側ハ故意ニソ聯領事館ノ業務  
ヲ妨害セントシテ一ヶ月ヲ經過スルモ査證ヲ發給セサリシコ  
トアリ兎ニ角我方ハ昨年十月以來未タニ全然滿側ヨリ査證ノ  
發給ヲ受ケ居ラス昨年八月以來未タニソ側ヨリ査證ヲ發給セ  
サルモノアリトノ貴言ニ關シ右ハ何人ノ査證ヲ指スモノナリ  
ヤ若シ于及筒井兩氏ノソレヲ指スモノナラハ既ニ中央ニテ拒  
絶セラレタル旨上野氏ニ回答セルカ然ルニモ不拘下村特派員  
ヨリノ要求アリシニ基キ中央ノ再審議方具申セル次第ナリ次  
ニ滿側領事館員カ外交信差トシテ歸國シタル場合ニ於ケル再  
入國査證ナラハ至急發給シ得ルモ佐藤屬官ハ在ソ滿側領事館  
員ニ非サル爲スル場合ハ其ノ都度中央ノ許可ヲ經サルヘカラ  
サルニ依リ佐藤、吉川兩屬官ノ査證ニ關シ中央ニ請訓シタル  
結果吉川屬官ノ査證ニ付テハ許可ノ回訓ヲ受ケタルモ佐藤屬  
官ノ分ハ未タ回答ニ接セス右ニ就キ既ニ再三中央ニ請訓シ置

外務省

(日本標準規格 B5)

478



ケル次第アルモ若シソ側提出ノ重要要求カ聊モ解決セラレサルニ於テハ自分ハ再ヒ中央ニ請訓シ難キ立場ニ在リ佐藤主事及泉副領事ノ査證ニ至リテハ何等問題ト成ラス兩氏ノ歸國ニ付テハ特派員ヨリ通知無カリシ爲全然關知セザリシカ右査證ハ若シ貴方ヨリ請求越有次第直チニ發給スルコトヲ得然レ共余ハ外交問題トシテ價値ナキ査證、水、ガソリン、石炭等ノ小問題ノ解決ニ先立チ先ツ重要問題ヲ解決スヘキモノト思考スルモノニシテ若シ重要問題ヲ解決セスンハ爾餘ノ問題モ解決スル必要ナシ

外務省

(日本標準規格B5)

479

龜山 議題多數ニ付遂次回答スヘシ  
北鐵従業員年金支拂停止理由ハ上野事務官ヨリ説明シアルニ付本官ハ之ヲ繰返ヌ必要ナキモノト認ム  
年金ノカピタリゼーションハ面白キ方法ナリト認ムルニ付自分トシテハ主義上之ニ賛成ナリ如何ナル方法ニテ之ヲ實施スルヤハ至急研究スヘク又歸京後中央トモ協議スヘシ

ク 具体的回答如何?

龜山 余個人トシテ主義上賛成ナリ

ク 個人トシテノ意向ナリヤ

龜山 余個人ハ即チ官吏ニ非スヤ

ク 將來ニ於テ研究サルルヤ將又今ヨリ研究セララルルヤ

龜山 只今ヨリ研究スヘシ

ク 本問題ハ夙ニ研究セラレアルヘキモノナルノミナラス既ニ決定セラレアルヘキ問題ナルニモ不拘今始メテ中央ニ報告シ研究

外務省

(日本標準規格B5)

480

スルトノ貴言ハ滿側ノ遷延策ナリト認ムルノ外ナク誠ニ遺憾ニ堪ヘス

龜山 本件ハ極ク最近惹起セル問題ニ非スヤ即チ客年十二月貴方ヨリ始メテ提出シタルモノニシテ古キ問題ニ非ス又本官ハ専門家ニ非サルヲ以テ本問題ハ専門家ノ研究ニ俟タサルヘカラス

ク 本件ハ上野事務官ヨリノ口頭提起ニ係ルモノニシテ余ハ右ニ基キ中央ニ報告シタル處中央ハ好意的ニ贊成セル次第ナリ龜山處長ハ北鐵買収ニモ參加セラレ居ルニ付以前ヨリ本件御承知ノ筈ナリ而モ本辦法ハ北鐵讓渡協定中ニ記載シアリ又鐵路局ニハ年金及カピタリゼーションノ専門的係員アルニ不拘何故未タニ決定ヲ見セサルヤ今ヨリ研究スヘシ云々トハ誠ニ遺憾ニ堪ヘス

龜山 否貴言ハ間違ヒナリ東京會議ニ於ケルカピタリゼーショント茲ニテ論議中ノソレトハ全然異ナルモノナリ前者ハ當時ニ於テ正ニ從業シ居リシ從業員ノ年金ニ關スルモノナルカ後者ハ協定

外務省

482

(日本標準規格B5)

締結前已ニ退職シタル者ノ年金支拂問題ニシテ前者ハ古キ問題ナルカ後者ハ最近起レル新シキ問題ナリ余ハ東京會議ニ參加セルモ専門家ニ非サル爲スル計算ニ携ハレルコトナキニ付専門家ニ就テ研究セサルヘカラス尚今度歸京ノ上ハ早速具体的ニ研究スヘシ

一 次ニ貴官ハソ側ニ逮捕サレタル十二名ノ滿人ヲ具体的ニ承知セサル旨述ヘタルカ右ハ實ニ驚キ入りタルコトナリ右十二名ニ關シテハ口頭乃至文書ヲ以テ貴方領事館ニ申出アルカ全然解決セサルノミナラス今尙其ノ十二名ノ何人タルヤヲ承知セサルハ誠ニ遺憾ニ堪ヘス口頭ニテ申入レル場合ハ姑ク措キ文書ヲ以テ通告シタル公文ノ日附、逮捕年月日及人数ヲ念ノタメニ再ヒ申上クヘシ

1、康徳四年七月二十日附覺書ヲ以テ同年七月十八日逮捕サレタル滿人五名ノ件ヲ駐哈ソ聯總領事館ニ通告セリ

外務省

(日本標準規格B5)

481

ク

2、康徳三年四月一日附文書ヲ以テ滿人三名ノ逮捕ニ關シ駐  
滿洲里ソ聯領事館ニ通告セリ

3、康徳四年八月二十四日附覺書ニテ滿人一名ノ逮捕事件ヲ  
駐哈ソ聯領事館ニ通告セリ

2、3、兩項ノ四名ニ關シ久シク回答ニ接セサリシタメ康  
徳五年一月十八日附覺書ヲ以テ駐哈ソ聯總領事館ニ至急釋  
放方要求セリ

4、康徳四年八月十八日附覺書ヲ以テ同年八月十七日滿人三  
名（船長一、船員二）ノ逮捕事件ヲ駐哈ソ聯總領事館ニ通  
告セリ

右ニ關シ懸案ヲ何時迄モ懸案タラシメ置クハ相互ニ面白カラ  
サルニ付双方同時ニ全部相互的ニ釋放シ以テ本件根本的ニ解  
決スルコトトシテハ如何

自分ハ是等十二名ニ付詳細ニ知ラサリシ爲具體的の説明ヲ求メ

外務省

(日本標準規格B5)

タル次第ナリ

逮捕者ヲ四對四ノ率ヲ以テ相互的ニ釋放スルコトニ付キ上野氏  
ニ申出タルコトアルモ何等ノ回答ニ接セス

去年八月十八日附覺書ニテ照會越有リタル滿人三名ノ釋放方  
ニ付中央ニ請訓セルカ中央ノ回訓ニ據レハ三名ノ中一名ハ白系  
露人ナルカ本名ハ元來ソ聯人ナルヲ以テ絕對ニ釋放スルヲ得ス  
尙其他ノ滿人ハ釋放スル意向ヲ有ス又貴官ハ全部ノ同時交換釋  
放方提議セラレタルカ若シ四對四ノ率ヲ以テスル交換釋放ナラ  
ハ合理的ト言ヒ得ルモ十二對四ノ交換ハ不可解ニテ滿人ハシカ  
ク安價ニ非スト思考ス

尙右ニ關シテハ箇々ノ逮捕原因ニ注意スルヲ要ス即チ四名ノソ  
聯人ハ不幸ニシテ暴風ノタメ黑河滿領側ニ漂着セルモノナルカ  
滿側ハ之ニ對シ援助ヲ與ヘサリシノミナラス却テ其ノ小舟ヲ破  
壞シタル上一行四名ヲ逮捕投獄セリ右ソ聯人ハ何等ノ不法行爲

外務省

(日本標準規格B5)

ヲ犯シ居ラス滿側ノ逮捕行爲コソ不法行爲ナルニ反シ滿人ノ抑留原因ハ全ク滿人ノ不法越境及其ノ他ノ不法行爲ニ存シ彼此ノ逮捕原因ハ全然ソノ趣ヲ異ニス然レ共余ハ滿人丈ハ必ス何等ノ方法ヲ講シ釋放スル様努力スヘキカ右ハ四對四ノ率ヲ以テスヘク十二對四ノ率ニハ應シ得ス

485

(日本標準規格B5)

外務省

486

龜山 貴説ニシテ斯ノ如クシハ本件審議ノ餘地ナシ人間ハ商品ニ非ス從テ取引ノ目的物トハ成リ得スソノ間安價乃至高價ノ別ナシ余ハ根本的徹底的政治的解決ヲ希望シ全部ノ同時交換釋放方提議セルモノナリ

ク 「滿人ハ安價ナリ」ト言ヘルハ余個人トシテ言ヘルモノニシテ不穩當ノ言ナリシヤモ知レサルカ滿側ノ意向カ少數ノモノヲ以テ多數ノモノヲ取得セントスル取引の意味アルヲ察知セルニ依リ斯ク言ヘル次第ナリ即チ四名ノソ聯人ヲ以テ十二名ノ滿人(露人ヲ含ム)ト交換セントスルカ如キ意見ハ既ニ取引ノ意味ヲ含メルニ非スヤ

逮捕サレタル十二名ノ滿人中ノ殆ント半数ニ付テハ既ニ中央ノ回訓ニ接シアリ然レ共双方ノ逮捕原因ノ不同ニ鑑ミ四名ノソ聯人釋放ハ十二名ノ滿人トハ全然別個ノ問題トシテ相關聯セシムルコトナク釋放スヘキモノナリ

(日本標準規格B5)

外務省

龜山 一問題ヲ繰返シ論議スルノミニテハ解決ニ達シ得サルニ付商取引の觀念ヲ棄テ政治的見地ニ立チ被抑留者全部ノ一括相互釋放ヲ行ヒ以テ本件根本的ニ解決スルコトト致度尙滿側要求ノ十二名中問題トナレル船長ハ滿洲國籍ヲ有スル當國ノ官吏ナルヲ以テ同人ヲソ聯人ナリト做ス貴說ニハ絕對ニ同意シ得ス兎ニ角懸案ノ徹底的解決ヲ期スル趣旨ヲ以テ右提案ヲ至急中央ニ請訓セラレ度尙右ニ付我方ノ態度ハ決定シ居レリ

ク 余ハ貴官ノ謂ヘル政治的解決ニハ大賛成ナリ滿人ニ付テハ可然方法ヲ講シソノ釋放ヲ保證シ得ルカ貴方モソ聯人四名ノ釋放ヲ保障セラルルヤ進ンテ言ヘハ彼此逮捕理由ノ根本的相違ニ鑑ミ滿人ノ釋放如何ヲ問ハス之トハ別個ニソ聯人四名ヲ釋放スヘキモノト思料ス

次ニ露人船長ニ付キ同人ハソ聯國籍人ニシテソ聯ハ同人ニ對スル絕對的處理權ヲ有スルヲ以テ他方ノ干涉ヲ許容セサル旨茲ニ

外務省

日本標準規格B5

正式聲明ス假ニソ聯籍滿鮮人カ滿側ニ逮捕セラレタル場合滿側ハ同様ニ自國人ナル旨主張スルナラン

龜山 船長ノ歸屬ニ付我方ハ絕對ニ前述ノ主張ヲ任ケス仍テ我方提案ノ請訓方至急取計ハレ度尙滿側ニテ先ツソ聯人ヲ釋放スヘシ云々ハ全然問題トナラス

ク 貴方提案ハ無罪ノソ聯人四名ト有罪ノ滿露人十二名ヲ同一視スルモノニシテ遺憾ナリ露人船長ニ付テハ既述ノ回答以外ニ回答ナシ即チソ聯ハ絕對ニ自國民ヲ他國ニ引渡スコトナシ若シ滿側カ同船長ノ引渡方ニ籍口シソ聯人四名ノ釋放ニ應セスハ右ハ滿側ニ本件解決ノ誠意ナキモノト認ムル外ナシ

龜山 ソ聯人四名ハ不法行為ノ廉ニ依リ逮捕セルモノニシテソ聯ノ滿人抑留コソ無根ノ不法行為ト云フヘキナリ然レ共問題ノ蒸返シノミニテハ本件進展ヲ期シ得サルニ付兎モ角當方提案ニ付請訓セラレ度

外務省

日本標準規格B5

ク 船長ハ絶對ニ引渡ササル旨重ネテ斷言ス  
龜山 本件ハ貴方ノ請訓ヲ俟ツコトトシ次ノ問題ニ移ルヘシソ聯飛  
行機ハ當該官憲ニ於テ目下調査中ニ係リ居ルニ付具體的の回答ヲ  
差控フヘキモ調査ノ促進方當該官憲ニ傳達スヘシ

尙本件ハ日本飛行機トハ無關係ニ付兩者ヲ關聯セシメサル様心  
得ラレ度又當時ソ側カ日本飛行士ニ加害セルト異ナリ滿側ニハ  
斷シテ斯ルコトナク全員無事ニ付安心アツテ可然

ク 余カ尙本飛行機ニ言及セルハソ側調査ノ迅速振ヲ引用セルニ  
過キス日本飛行士ノ負傷ニ付テハ同人等カソ聯民衆ニ對シ武器  
ヲ以テ抵抗セル爲已ヲ得ス負傷セシメタルモノナルカ今次ノソ  
聯機ハ軍用機ニ非ス而モ着陸スルヤ搭乗者ハ無抵抗ニテ滿側官  
憲ニ自首セリ又同機着陸ノ原因ハ針路ノ錯誤ニ依ル已ヲ得サル  
不時着ニシテ而モ多數ノ郵便物搭載シアルニ鑑ミソ聯政府及民  
衆ハ深甚ナル注意ヲ拂ヒ居レリ余ハ前例ニ徴シ(康德三年十月

二十八日ハンオーラ着陸ソ聯機搭乗ノ飛行士ノ件)飛行士ノ侍  
遇ニ懸念ヲ抱キ居ルヲ以テ飛行士ト面會致シ度キニ付右様是非  
御斡旋願度尙面會ノ上必要ニ應シ差入ノコトモ考慮致度

外務省

(日本標準規格B5)

外務省

(日本標準規格B5)

龜山 ソ聯飛行機ハ我方國境地帯法ニ違反シソノ行動ノ性質頗ル重大ニ付慎重ナル調査ヲ要ス尙面會云々ハ調査完了迄ハ恐ラク困難ナラン

ク 調査ノ促進及可及的速カナル完了方切望ス貴言ハ中央ニ報告スヘキカ本件ハ重大問題ナルヲ以テ本件解決セハ爾餘ノ問題ノ解決ハ極メテ容易ナラン

龜山 飛行機問題ハ其ノ件ト無關係ニ付個々ノ問題ヲ個別的ニ解決スヘキナリ

次ニ舊齊々哈爾領事館敷地ニ關シ貴官ノ指摘セル書類ハ土地ニ對スル權利ヲ立證スル地券ニ非スト認メラル土地使用權唯一ノ證明書ハ地券ニ外ナラサルニ付貴方カ之ヲ所持セラルルナラハ右至急提示セラレ度

ク 貴回答ニハ不満足ナリ齋々哈爾地方官憲カソ側ニ通知スルコトナク直チニ同敷地ヲ沒收セル態度ハ之ヲ如何ニ解スヘキヤ

外務省

(日本標準規格B5)

龜山 我方ニハ同敷地ニ對スル貴方ノ使用權ヲ立證スルカ如キ證據物件存セサルヲ以テ當然之ヲ國有財産トシテ取扱フヘキモノナリ然レ共前述ノ如ク地券ノ提示越アラハンノ時改メテ關係機關トモ協議ノ上考慮スヘシ

ク 滿側ノ遣リ方ハ不法行爲ト認ムル外ナキカ我方ハ證明書類ヲ提示スルコトヲ得尙建物ノ保全方ニ付現地機關ニ可然傳達有度實ハ昨年五、六月頃家屋番人ハ窓ヲ破損スル者ヲ阻止シ得サリシ事例アルニ付地方官憲ノ有效ナル保護方依頼スル次第ナリ

龜山 敷地ノ權利ニ付テハ前述ノ通措置セラレ度尙家屋ノ保全ニ付テハ番人ニ託シアル由ナレハ恐ラク安全ナラン滿側ニハ該家屋ヲ破損スル所存ナシ又事實上全然破損セルコトナク斯ル道理モナシ尙現地官憲ニハ可然取次キ置クヘシ

ク 敷地ノ原狀恢復方取計ヒ得サルヤ

龜山 同地ハ前述ノ通元來滿洲國ノ國有地ニシテ既ニ公園ニ編入シ

外務省

(日本標準規格B5)



アルニ付根本的變更ハ極メテ困難ナリ建物ノ保全ニ付キテハ貴方  
ニテモ番人ヲ増派セラルレハ可ナラン

ク 貴方ノ回答ハ中央ヲ満足セシメサルヘシ

龜山 我方ノ意向ハ充分了解セラレタルモノト思フニ付次ノ問題ニ  
移ルヘキカ先ツ査證ニ關シ既述ノ通佐藤屬官ニ對スル査證ヲ至急  
發給セラレ度

ク 先ツソ側査證ニ對スル許可ナクシテハ佐藤屬官ノ査證ニ付中  
央ニ照會スルヲ得スソ側要求ノ分力解決セハ滿側ノ夫モ從テ解決  
セラルヘシ

龜山 我方ノ要求シ居ル査證ハ外交信差ニ對スルモノニシテ一般査  
證トハ全然趣ヲ異ニスルニ付佐藤屬官ノ分ヲ大至急發給セラレ度

ク ソ側要求ノ査證ニ對シテハ如何セラルルヤ

龜山 外交クリエルニ對スル査證要求ハ別個ノ問題ナルニ付本件ヲ  
先決シ然ル後爾餘ノ査證ニ付別個ニ審議スヘシ

外務省

日本標準規格 B5

493

ク ソ側査證ヲ許可スル旨ノ回答ヲ得スハ只今貴方要求ノ分ニ付  
テモ請訓スルヲ要ス

龜山 泉副領事及佐藤主事ハソ聯在勤中ノ者ナルニ付兩氏ニ對スル  
査證ハ中央ヘノ請訓トハ無關係ナリ

ク 然ラハソ側要求ノ査證ニ對スル貴見如何

龜山 目下論議中ノ査證ハクリエルニ對スルモノナルヲ以テ右解決  
後ニ於テ爾餘ノ滿側要求査證ト共ニ一般的ニ審議スヘシ

ク 本官トシテハソ側要求中ノ査證ノ許可ヲ受ケスシテハ滿側ニ  
對シ査證ヲ與ヘ得ス然レ共中央カ本官ノ右見解ヲ不當トスル旨同  
訓越ス場合ハ滿側ノ分ヲ先ニ發給スヘシ

龜山 武領ヘノクリエル派遣ハ武黒間交通遮斷ニ對スル緊急措置ト  
シテ起レル問題ニシテ前述ノ通一般査證トハ全然別個ノモノナリ  
然ルニ貴官ハ泉副領事及佐藤主事ノ分ヲモ含メ之ヲ拒絕セントス  
ル意向ナリヤ貴官ハ在ソ領事館員ノ分ハ當地ニテ支障ナク發給ス

外務省

日本標準規格 B5

494



ル旨上野氏へモ言明セルニ非スヤ然ルヲ今遽ニ之ヲ中央ノ問題ト爲サントスルハ奇怪ナリ

ク 在ソ館員ニ對スル再入國査證ノ即時發給ハソ側査證ノ許可ヲ豫想シ且之ヲ條件トセルモノニシテ上野氏へ言明セルハコノ趣旨ニ依ルモノナリ

日本標準規格B5

外務省

龜山 クリエル及再入國査證ト一般査證ノ混同ハ願テ他ヲ云フモノナリ右ヲ發給セスト云フハ泉副領事及佐藤主事ノ歸任ヲ拒絕セントスル意ナリヤ

ク 拒絕ニ非ス然レ共自分トシテハ請訓ヲ要ス

龜山 在ソ領事館員ノ再入國査證ニ付上野氏ニ與ヘタル言質ヲ續スハ何故ナリヤ而モ館員歸任ヲ延引セシメントスルハ重大問題ト看做スヘシ

ク 上野氏ニ云ヘルハ査證ノ相互的解決ノ意ナリソ側査證ヲ貫ハサル以上滿側査證ハ發給セス

龜山 クリエル査證ヲ即座ニ發給セサル旨ノ主張ニハ承服シ得ス兎ニ角吉川屬官及佐藤主事ヲ先發セシムルニ付右佐藤主事ノ分ヲ大至急發給セラレ度

ク 中央ノ承認ヲ得タル上ニテ發給スヘシ

龜山 ソ側ハ滿側査證ヲ一部拒絕セルカ拒絕ヲ以テスル處理ハ解決

日本標準規格B5

外務省

ク  
ニ非ス我方モ斯ル方法ヲ以テセハ即座ニ解決スルコトヲ得ル  
モ我方トシテハ斯ノ如キ解決ヲ欲セサルヲ以テ種々詮議ノ爲  
延引スルコトモアリ得ヘシ兎ニ角我方ノ要求セル査證中ニハ  
昨年八月以來未解決ノモノ殘存ス

ク  
余ハ中央ニソ側カ佐藤屬官等ノ分ヲ發給セハ滿側ヨリモソ側  
査證ノ許可アルヘキ旨報告シ置ケル處貴官ノ御意向ハ之ヲ別  
個ニ取扱ハントスルニ在リト了解ス尙筒井氏ニ對スル査證拒  
絶ハ旅行ノ爲ノモノナリシニ因ル

龜山  
佐藤主事ノ査證ヲ大至急發給セラレ度  
請訓ノ上二日後ニ回答スヘシ

ク  
然ラハ右査證ハ二日以内ニ發給セラルモノト期待ス

龜山  
ソ側ノ爲ニ査證ヲ許可セハ何等問題無カラシ

龜山  
滿側カソ側査證ヲ發給セサルハ領事館員數等ノ問題モ加味セ  
ラレ居ルモノト考察スルカ滿側要求ノ査證中ニハ久シク未解

外務省

(日本標準規格B5)

ク  
決ノ儘ナルモノモアリ孰レ歸京ノ上相互の解決方努力スヘシ  
領事館員數ニ關シソ側カ多數ノ居留民ヲ擁スルニ反シ赤塔ニ  
於テハ滿側僑民皆無ニシテ又武市ニ於ケル夫ハ二、三名ニ過  
キサルモノト承知ス然レ共ソ側ノ館員數ハ今後増加セサルヘ  
ク旁々館員數ニ觸ルレハ問題ハ複雑トナルヘシ

龜山  
余ハ査證問題ノ一般的解決ニ努力セントスル意向ヲ有スルニ  
付貴方ニテモ滿側要求ノ分ニ付至急中央ノ許可ヲ取付クル様  
努力セラレ度尙貴方ノ館員中入國許可ヲ受ケタル者ニシテ久  
シク來任セサルモノアルカ先ツソノ方ヲ呼ビ寄スルコトトセ  
ハ可ナラン査證ヲ請求スルニ急ニシテ許可ヲ受ケタル者ノ來  
任ノ遅キハ寧ロソ側ノ意向ノ那邊ニ存スルヤヲ疑ハシムルモ  
ノナリ

ク  
來任ノ遅速ハ當方ノ問題ニシテ余ハ未解決ノ分ニ付テノミ論  
議シ居ルモノナリ

外務省

(日本標準規格B5)

龜山 舊キ問題ハ姑ク措キ滿側要求ノ分ヲ至急請訓セラレ度然ラハソ側ノ分モ考慮スヘシ但シ在ソ館員ノ歸任査證及佐藤、吉川兩屬官ノクリエル査證ハ前述ノ通全然別個ノモノナルニ付先以テ右ヲ至急解決セラレ度

ク 佐藤、吉川兩氏ノ分モ一般査證ト結ヒ付ケテ考慮スヘシ

龜山 泉、佐藤及兩クリエルノ査證ヲ一般査證ニ結ヒ付クルニ於テハ紛糾ヲ來シ査證問題ノ解決ヲ不可能ナラシムヘシ先發ノ吉川屬官及佐藤主事ノ分ハ二日以内ニ發給セララルモノト期待ス

ク 二日以内ニ中央ノ回答アルヘシ

龜山 次ニリミット問題ニ關シ既述ノ如キ滿側館員ノ特殊性ヲ考慮シ我方ノ要求額タル領事館毎ニ六万留ノ許可方中央ニ請訓セラレ度尙現地ニ於テ館用物資ヲ出來得ル限り自由ニ入手シ得ル様盡力アリ度又滿側ヨリノ物資帶入モ自由トセラレ度

外務省

日本標準規格B5

ク 六万留ノリミットハ前述ノ通絶望ニテ而モソ側要求事項ハ一モ解決セサルヲ以テ中央ハ之ヲ奇怪トスヘシ

尙武市ニハ前記ノ通カズロフ代表着任スヘキニ付斯種問題ハ現地ニテ解決ヲ圖ラレ度

龜山 當地トソ聯ハ商業組織ヲ異ニシソ聯ハ總テ國營ナレハ貴官ヨリ當該官憲ヘ可然措置方盡力セラレ度尙代表着任ノ上ハ現地ニテモ交渉スヘシ次ニ武黒間ノ交通遮斷ニ鑑ミ武市新京間常設クリエル制度ノ設置問題ヲ大至急解決セラレ度

クリエル制度ニ付テハ上野氏ヨリ申出有リシニ依リ目下請訓中ナリ

龜山 本件大至急回答ヲ求ム尙今次ノクリエル派遣ハ相互主義ノ問題ニ非ス武領存立ニ關スル大問題ナリ

ク クリエル査證ニ付テハ請訓スヘシ

龜山 時間ノ都合上之ヲ以テ二日間ノ會談ヲ終ルヘキカ本會見ニ依

外務省

日本標準規格B5

ク  
リ双方ノ意向ヲ互ニ承知シ得タルハ有益ナリ相互ニ諸問題解  
決ノ爲努力致度  
同感ナリ

外  
務  
省

(日本標準規格B5)

501

公機密第四三一號  
昭和十三年三月二十九日

在滿洲國  
特命全權大使 植田謙吉

外務大臣 廣田弘毅 殿

武市ソ側官憲ノ滿洲國領事館壓迫狀況ニ關スル件

本件ニ關スル三月二十三日附外務局長官宛駐武市領事發報告寫御參  
考迄別添送付ス

本信寫送付先 哈爾賓、滿洲里

外  
務  
省

(日本標準規格B5)

502

REEL No. A-0303

0349

アジア歴史資料センター

康徳五年二月二十三日附長官宛駐武市領事發公信寫

現地官憲ノ當館ニ對スル壓迫近狀ノ件

當地ノ聯官憲ノ當館壓迫ニ關シテハ累次報告置キノ通ナル處最近右ハ益々熾烈化シ館ノ監視尾行又ハ妨害等悉ク強壓加重ノ一途ヲ辿リツツアリ仍テ本件最近ノ狀況左記ノ通報告申進ス

記

一、館構内照明裝置増設

客年往信第一五五號ノ通昨年七月當地官憲ハ突如當館周圍ニ電燈柱四本ヲ新立シ之ニ五百乃至千燭ノ電球ヲ取付ケ以テ館屋敷内外ヲ照明シ來レル處本年一月末ニ至リ亦亦館ノ東南隅板塀外ニ新タニ一本ノ電柱ヲ増置シ之ニ千燭光ノ電球ヲ點燈シ當館監視ヲ益々強化セリ

三、當館周圍監視ノ爲隣家板塀除去

本年一月末、當館屋敷西側境界板塀ニ續ケル隣家板塀約十尺ヲ除

外務省

日本標準規格B5

503

三、尾行ノ露骨峻嚴化

去シ此所ニ鐵線ヲ張り以テ當館門前民警哨所ヨリ筒拔ニ當館西側板塀外側ヲ見透シ館周圍ノ不斷ノ監視ニ當リツツアリ  
(當館南側ハ街路ニシテ東西北境外々ハ共ニ隣家屋敷ナリ)  
既報ノ通昨年五月頃ヨリ當館正門前相向ノ民家ヲゲ・ペ・ウノ詰所トナシ此所ニ當時尾行員詰切り(六、七名)館員自動車ニテ出門セハ直チニ自動車ニテ又徒歩ノ場合ハ徒歩ニテ直チニ我方ヲ追跡シ來レル處(出門館員ノ數ニ應シテ先方モ同數ノ尾行員ヲ附スコトヲ例トス)昨年末アムール河開江時前後ヨリ尾行振漸ク熾烈化シ當時黑河ニ往復シ得タル本官)等カ出入境ニ當リ旅券檢印ノ爲國境ゲペウ事務所ニ入ル場合モ尾行員ハ共ニ右事務所ニ隨行シ一言半句モ聞キ洩ラサント側近ニ密着シ國境封鎖後館員カ當地電信局ニ發電ノ場合ハ最後迄之ニ附着シテ窓口ニ頑張り通シ殆ント發電ノ邪摩ヲ爲サン許リノ姿態ヲ示シアリ其他バザール及商店ノ

日本標準規格B5

外務省

504

買物ニシテモ肩越シニ吾等ノ財布ヲ覗カン迄ニ膠着シ又館員ノ理  
髪店或ハ浴場ニ赴ク場合モ同様用務ヲ終ル迄終始側近ニ我等ヲ監  
視シ其ノ不快無禮言語ニ絶スルモノアリ

505

外務省

日本標準規格B5

四 醫師ノ來診拒絶

當館員ノ發病ニ當リ醫師ノ來訪ヲ要請セルニ對シ直チニ之ニ應セ  
サリシハ既ニ三年來ノ事實ニシテ當時當館ニ於テハ人道的見地ニ  
基キ外交代表ニ再三強硬其ノ不都合ヲ申出テタル結果當時ノ臨時  
代表マルツイノフ（黒河ソ領事代理）ハ今後當館出入ノ醫師トシ  
テ市立病院チエルノフ者指定セラレタル旨回答越アリタルニ不拘  
先般劉主事發病容態悪化セル際館員病院ニ驅付ケタルニ折シモ右  
チエルノフ其場ニアリタルニ不拘ゲベウノ許可ヲ云々シ遂ニ來診  
セス（勞働病院ニテモ來診ニ不應）斯クシテ現今ニ於テハ館内病  
者ヲ生スルモ醫廉ヲ受クル能ハサル狀況ナリ

五 外來者館出入禁止

本項ニ付テモ屢次既報ノ通りナルカ當館出入者ニ對スル取締ハ益  
々強化シ修繕夫薪割勞働者ヲスラ入門ヲ許可セス現ニ一一許可ヲ  
取付ケ入門シアルハ飲料水運搬夫（支那人）電報配達及電燈料集

外務省

日本標準規格B5

506

金人ノミニ過キス斯クシテ當館ト外部トハ全然遮斷セラレ館務執  
行上重大ナル障礙ヲ蒙リツツアリ

六 野菜其他販賣妨害

曩ニ昨年往電第一一九號ノ通當館員ニ對スル野菜販賣妨害（實ハ  
禁止）ハ今日尙依然繼續セラレ食料難ノ現地ニ於テ吾等ニ一層ノ脅  
威ヲ與ヘル處他方馬糧、燕麥ノ如キモゲペウノ許可ナキ限り當館  
ヘノ販賣禁止ヲ館員ノ面前ニ於テバザール商店ニ言渡ス等ノ暴舉  
ヲ敢テ爲セリ

要之館及館員ノ監視尾行強化竝ニ外來者出入禁止等ハ所謂國內密偵  
國民ノ仇敵竝ニ反國家分子等掃蕩討滅ニ對スル現ソ政權ノ政策手段  
ヲ正當化セントスル苦肉ノ策ニシテ醫師來診又ハ食料入手妨害ノ如  
キハ口ニ平和主義ト人類共愛ヲ高唱シアル手前ニモ恥チス我館ヨリ  
人間生活上ノ根本的要素ヲ奪取シ我館駐在ニ絶大ナル痛痒ヲ與ヘ以  
テソ側ノ鎖國主義實行ニ供セントスルニ非サル乎ト被恩料

日本標準規格B5

公機密第五五二號

昭和十三年四月二十七日

在滿洲國

特命全權大使 植田謙吉

外務大臣 廣田弘毅殿

「ソ」聯官憲ノ赤塔領事館壓迫ニ關スル件

本件ニ關スル四月十八日附外務局長官宛駐哈特派員發報告寫御參考  
迄別添送付ス

本信寫送付先 哈爾濱、滿洲里

日本標準規格B5

外務省

祕第三五五號

康德五年四月十八日

駐哈爾濱外務局特派員  
下村信貞

外務局長官  
蔡運升 殿

赤塔領事官壓迫ニ關スル件

四月十五日「ソ」聯總領事代理「クズネツオフ」他用ヲ以テ當署員  
ヲ來訪セル際本件ニ關シ赤領ニ對スル「ソ」側官憲ノ壓迫カ日ヲ逐  
フテ熾烈ヲ加ヘ尾行ノ執拗非禮ソノ極ニ達シ最近ハ館員カ放棄スル  
鼻紙スラー々拾得檢査シ居リ又修繕工及薪割人夫等モ門前立哨ノ民  
警ニ阻止乃至迫害サレ用ヲ辦スルニ由ナキ苦境ニ在ル旨述ヘ事態改  
善方措置スル様要求セル處「ク」ハ「ソ」側館員モ常ニ尾行ヲ附セ  
ラレ居ルカ斯種問題ハ現地ニ於テ交渉セシムレハ可ナリト横柄ナル

外務省

(日本標準規格B5)

509

口調ヲ以テ全然取合ハントセサリシニ因リ當方ハ現地ニ於テハ外交  
代表ステニ解消セラレ居リ辣開カサルカ貴官ノ我方領事館ニ對スル  
斯クモ冷淡ナル態度ハ之ヲ特派員ニ報告スヘシト述ヘ「ク」ノ不誠  
意ナ言辭ニハ何等效果ヲ期待シ難カリシヲ以テ一應會談ヲ打切レル  
趣ナリ

右報告ス

本信寫送付先

赤領、武領、滿辦

外務省

(日本標準規格B5)

510



6

歐亞風

第一課

別紙添付

昭和十三年六月一日

公機密第六八二號

昭和十三年五月三十一日

在滿洲國

特命全權大使 植田謙



情報部

外務大臣 宇垣一成 殿

一九三八年年度武市領事館リミット問題ニ關シ外交代表トノ折衝ノ件

本件ニ關スル三月二十六日附外務局長官宛駐武市領事發報告寫御參考迄別添送付ス

在滿日本帝國大使館

(12. 11. 50.000 黏川納)

512

康德五年三月二十六日附駐武市領事發報告寫(祕第四九號)

本年度當館リミット問題ニ關シ當地外交代表トノ折衝ノ件

本件ニ關シテハ往電第四六號ヲ以テ一應報告置ノ處昨二十五日市川副領事カツロフ代表ニ會見ノ際本件交渉力既ニ哈爾濱ニ於テ行ハレクズネツオフ總領事代理ヨリノ最底二萬五千留迄ノ許可ハ莫斯科ニテ承認可能ナルヘントノ申出ヲ引用シ現地市場ニ於ケル物資拂底ノ狀況ト館員日常生活上必需品トシテノ特殊食料品輸入ノ不可缺ナル事情ヲ説明往信第三七號ノ趣旨ニ據リ差當リリミット額二萬五千留ノ許可取付至急取計方要請セル處カハ右ニ對シ未タ莫斯科又ハ哈爾濱ヨリ本件ニ關シ何等ノ情報ニハ接シ居ラサルモ直チニ右中央ニ請訓スヘント約セリ

在滿日本帝國大使館

(12. 11. 50.000 黏川納)

歐亞局

公機密第七〇一號

昭和十三年六月二日

在滿洲國

特命全權大使 植田 謙吉

東亞局

外務大臣 宇垣 一成 殿

武市、黑河間交通復活問題ニ關シ武市  
外交代表トノ折衝ノ件

本件ニ關スル三月二十六日附外務局長官宛駐武市領事發報告寫御  
參考迄別添送付ス  
本信寫送付先 哈爾濱、黑河、滿洲里

昭和十三年六月六日 接受  
別紙添付

和  
一  
三  
六  
〇  
一  
一  
一

在滿日本帝國大使館

(12. 11. 50.000 貼川納)

513

寫

康德五年三月二十六日附武市領事發報告寫

武黑間交通復活問題ニ關シ當地外交代表トノ  
折衝ノ件

首題ニ關シテハ往電第四六號ヲ以テ一應報告置ノ次第有リタル處  
昨二十五日午後市川副領事カズロフ代表ヲ往訪本件ニ關シ  
客年十二月十八日ソ側官憲ハ何等ノ豫告ナク突如武市國境關門ヲ  
閉鎖スルト共ニ武黑間國際交通ヲ一方的ニ遮斷シ是ガ結果トシテ  
當館ノ本國トノ公務連絡ヲ殆ンド不可能ニ陥ラシメ延ヒテ當館々  
務執行上甚大ナル支障困難等ヲ招來セシメタリ、右ハ容易ナラザ  
ル問題ニシテソ側今次ノ措置ハ我方立場ヲ顧念セザル獨斷的行爲  
ニシテ延ヒテ兩國關係上及ボス影響鮮カナラズト認ムト論難シ我  
邦側ノ在滿洲里ソ領事館側ニ對スル定期通行證發給ニ關スル待遇  
竝ニ一葦帶水呼ベバ答フル本國領土ニ連絡入鏡スルニ當リ少クモ  
一週日ノ日子ヲ要スル當館側ノ多大ノ不利不便等ニ言及シ滿ソ相  
互主義ト隣接兩國親善増進ノ見地ニ立脚シソ側ニ於テ封鎖問題ヲ  
再検討スルト共ニ改メテ關門再開交通復活ノ用意ナキヤ尤モ今ヲ

在滿日本帝國大使館

(12. 11. 50.000 貼川納)

514

去ル四年前當齎地前代表メラメツド氏ハ現在ノ關門地點ガ何故ニ  
カソ側ニトリ好マシカラザル趣ヲ以テ關門ヲ下流アムール商業埠  
頭附近ニ移動方ノ希望ヲ非公式乍ラ當館側ニ申出デタル事實アリ  
但シ右ハ其ノ儘トナリ昨年末封鎖ニ至ルマデ其ノ移動ハ實現セザ  
リシモ右ノ如ク現在ニ於テモソ側ニ於テ其ノ位置如何ヲ問題ト爲  
シアルモノトセバソ側ニ於テ差支ナシト認ムル他ノ地點ヲ撰ビ以  
テ關門ヲ再開スルノ用意アリヤ果又此ノ儘閉鎖ヲ押通サントスル  
心底ナリヤト質シタル處、カハ着任勿々ノ事ニモアリ一昨日好晴  
ヲ機會ニ市中見學ノ序ヲ以テア江々岸ニ佇ミ對岸貴國領ヲ眺メ特  
ニ黑河市ノ意外ニ手近ナルニ聊カ一驚ヲ喫セル程ナルガ之ノ最短  
距離ニ據ル交通ノ可能ヲ失ハレタル貴館側ノ御不便ハ小官ニ於テ  
モ充分諒察スル所ナリ然シ乍ラ武市國境關門閉鎖ニ關シテハ當時  
余莫斯科外務部ニ在リテ夙ニ承知セル所ナルガ本件封鎖ハ單ニ當  
地關門ノミニ限ラズ一般ニ外國トノ通商取引又ハ國際的交通連絡  
無キ地點ヲ封鎖セントスルソ側ノ建前(之ノ意味ニ於テアトボ)

在滿日本帝國大使館

(12. 11. 50.000 滿川納)

ルノ如キ地點ハ閉鎖ヲ見ズト附言ス)ニ基クト同時ニ之ニ伴フ國  
境稅關ノ撤廢其ノ他ニヨル國費節約ヲ目的トシテ實施セラレタル  
モノナルヲ以テ貴言ノ如キ關門位置ノ如何云々等其ノ復活トハ何  
等關係無キノミナラズ右閉鎖ハ絕對的ノモノト思惟スト言明セリ  
仍テ當方ヨリ然ラバソ側ニテハ如何ニシテモ右再開復活ノ肚無キ  
ヤト重ネテ質シタルニ對シカ代表ハ前言ヲ繰返シ應酬スルノミ  
惟フニ本件ニ關シテハ曩ニ駐哈ク總領事代理ニ於テモ我方側ニ對  
シ右ト大同小異ノ答辨ヲ爲シ加之當地關門封鎖ガ主トシテソ聯國  
是タル鎖國主義ニ基因スルモノト認メラレ且黑河ソ領事館引揚ニ  
據リ現地の相互主義ノ根據消失ノ折柄本件解決ハ在滿現ソ領館側  
ニ對シ現ニ封鎖ニ據リ當館ノ蒙リツツアル打撃ニ相當スルカ若ハ  
其以上ノ痛擗ヲ其ノ頭上ニ下シ以テ具體的報復手段採用ニ據リソ  
側ノ猛省ヲ促ス場合ハ兎モ角單ナル交渉ノミニヨリテハ其ノ實現  
恐ラク至難ナルベシト思料セラル  
右何等卑見相添へ此段報告申進ス

在滿日本帝國大使館

(12. 11. 50.000 滿川納)

歐亞局

公機密第七〇三號

昭和十三年六月一日

在滿洲國  
特命全權大使 植田 謙

外務大臣 宇垣 一成 殿

武市領事館クリエールニ對スルソ側官憲ノ  
態度改善方要求ノ件

本件ニ關スル三月二十六日附外務局長官宛駐武市領事發報告寫御  
參考迄別添送付ス  
本信寫送付先 哈爾濱 滿洲里



別紙添付

517

在滿日本帝國大使館

(12. 11. 50.000 粘川納)

518

寫

康德五年三月二十六日附駐武市領事發報告寫  
(祕第五二號)  
當館クリエールニ對スルソ側官憲ノ態度  
改善方要求ノ件

二月二十五日附往信祕第二五號ヲ以テ報告置ノ本件ニ關シ昨二十  
五日午後市川副領事力代表ニ會見ノ際カズロフニ對シ  
二月十四日タイブイセフ驛ニ於テ當館クリエールノ蒙レル壓迫振  
ヲ説明シ右クリエールニ於テ外交傳書使タル身分ヲ充分説明セルニ  
不拘驛當局ガ其ノ携行スル外交鞆迄モ荷物預所ニ供託ヲ強要シ之  
ヲ爲サザルニ於テハ携帶鞆ト共ニ驛待合室ニ入室ヲ許サズト無禮  
ナル態度ヲ以テ應酬シ遂ニ我クリエール等ハ酷暑中八時間餘ノ長キ  
ニ亘リテ外交鞆ト共ニ屋外ニ佇立スルノ餘儀ナキニ至レリト特ニ  
此ノ點ヲ強調シ驛當局態度ノ不都合難詰シク驛ノ如キホテルサへ  
皆無ナル不便ノ乘換地點ニ於テハ驛當局ノ如キ却ツテ便宜供與ヲ  
爲スコトコソ國際道德上ノ義務ナラズヤト酬ヒソ側ノ反省ヲ促ス  
ト共ニ今後斯種取扱ノ改善ヲ期セラレ度ト申入レタリ

在滿日本帝國大使館

(12. 11. 50.000 粘川納)

右ニ對シカハク驛ハ自分先般着任ノ際地方官憲宅ニ一泊通過セル  
ニ過ギズ從テ同方面事情ニハ更ニ疎キモ右貴說ノ如クナラバ驛當  
局ノ態度ハ目茶苦茶ニテ寧ロ彼等ノ恥辱ナリ右ハ彼等ノ國際知識  
缺如ト無教養ニ基クモノナルヘキガ管轄關係上本件ハ哈府ニ通報  
シ今後ノ改善ヲ期スベク外交クリエールノ資格尊重ハ今更言フ迄  
モナシト獨語シ少シク顔ヲ曇ラセタリ  
仍テ當方ヨリ更ニ同地ニ旅館ナク館員通過ノ際ハ同地ノ下宿屋ニ  
宿泊ヲ例トシ來レル處何故カ昨年末頃ヨリ其ノ都度空部屋ナシト  
ノ言譯ヲ以テ宿泊ヲ拒絶セラレツツアリ右ハ當方ニトリ甚シキ苦  
痛ナルヲ以テ今後右下宿屋ニ於テモ出來得ル限り室ヲ提供スル様  
共ニ取計有リ度ト要請セル處カハ同様哈府ニ通達ス可シト約セリ  
右報告申進ス

在滿日本帝國大使館

(12. 11. 50.000 鮎川納)

電信寫

在蘇領事館  
待過  
伝書

昭和13 一六五三九 平 武市 六月十日 前發  
本省 十日 夜着

字垣外務大臣

第三三號

下村領事代理

六月末日ヲ以テ條約期間満了スル蘇聯紙ノ請願繼續方本十日申入レ  
タルニ郵局ハ外務代表ノ許可取付ヲ要求シ外務代表ハ本官ヨリ會見  
方電話ニテ申入ルルヤ要件ヲ質問シ新聞豫約ハ營造物ニノミ許與セ  
ラレ居リ日本領事館ハ既ニ閉鎖セラレ存在セサルモノト考ヘ居ルニ  
付如何トモ致シ難シ市中ニテ入手アリ度シト斡旋方拒否セリ  
蘇、哈府、瀋陽へ電報セリ



秘

昭和13 一六七七七 (暗)

新京 六月十三日 午後  
本省 十三日夜着

歐

宇垣外務大臣

植田大使

第三九八號

武市滿洲國領事來電

下村領事代理ヨリ外務大臣へ左ノ通り

第三四號

四月十五日以後ハ領事官ノ職務執行ヲ認メスト通告セル蘇僑ハ先ツ  
暗號電信ノ收受ヲ拒否シ次テ新聞報約迄受埋セサルニ至リタルヲ以  
テ之ト共ニ外務代表ノ態度ハ從來ノ親善態度ヲ一掃シ若シク硬化セ  
ル感アリ尤モ右ハ當地ノ雰囲気ノ致ス所ナルヘキヲ以テ強チ當館ニ

電信寫

限リタルコトニハアラサルモ當館ノ殘留ニ最大同心ヲ有スル外務代  
表トシテハ自然當館へ取モ辛ク當リ居ル次第ナリ然シ乍ラ私生活ニ  
ハ格別壓迫ヲ感セス從來ト變化ナキ處蘇僑ニ於テモ時局制假重ノ感  
度ニ出テ徒ニ人迫問題等ヲ恣ニ我方ノ輿論ヲ刺戟スルカ如キコト  
ハ差控へ居ルモノノ如ク思考セラル

御教書ニ依リ關係公館へ電報、轉報請フ(了)

歐亞局

第一課

昭和十三年九月九日  
別紙添付

公機密第一一二五號

昭和十三年八月二十九日

在滿洲國

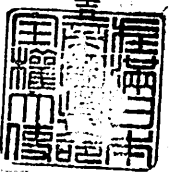
特命全權大使

植

田

謙

吉



外務大臣 宇垣一成 殿

ソ聯税關員ノ不法行爲ニ關スル件

本件ニ關スル外務局長官宛駐滿洲里辦事處長發電報寫御參考迄別添送付ス

本信寫送付先 哈爾濱、滿洲里

在滿日本帝國大使館

(13.4.60,000枚)

523

康德五年八月二十三日着滿洲里辦事處長來電寫  
八月二十一日武市ヨリ着滿セル武市領事館備人二名ハ八六站税關  
ニ於テ全裸体トセラレ各三十分餘ニ亘リシヤツ、靴下ノ縫目ニ至  
ル迄徹底的検査ヲ受ケ剩ヘ懷中時計一置時計一ハ使用ニ堪ヘザル  
程破壊セラレ枕及蒲團等中味ヲ引出サレタリ  
右ニ關シ八月二十三日滿辦處員ハ駐滿洲里ソ聯領事代理フエドウ  
ロフニ對シ検査ノ結果何等禁制品ノ發見ナカリシ旨附言ノ上右ノ  
如キソ側行爲ニ付嚴重抗議スルト共ニソ側ノ正式謝罪及責任者ノ  
處罰ヲ要求セリ

(13.4.60,000枚)

在滿日本帝國大使館

522





陸軍局

公領機密第七五二號

昭和十三年九月十七日

在哈爾濱

總領事 鶴見 憲

在滿洲國

特命全權大使 植田 謙吉 殿

東亞周

八十六驛ニ於ケル蘇聯官憲ノ在武市滿洲國領事館  
傭人検査ニ關スル件

本件ニ關シテハ九月十七日附公領機密第七四四九號抽信ヲ以テ及報告  
置タル處右ニ關シ今般更ニ駐哈外務局特派員ヨリ九月六日附外務局長  
官宛秘第七八〇號公信寫送付越セルニ付何等御參考迄別添ノ通達達ス

昭和十三年九月廿三日接受

情 13.9.30 庶

524

本信寫送付先

外務大臣

在蘇大使

滿洲里

525



秘第七八〇號  
康德五年九月六日

駐哈爾濱外務局特派員  
下村 信貞

外務局長官  
奉 運 升 殿

八十六驛ニ於ケルソ聯官憲ノ武領備人  
検査ニ附スル也

九月三日ソ聯總領事代理ゴルブツオフ他用ヲ以テ本官ヲ來訪セル際  
本件(滿辦發貴官宛八月二十三日附電報及九月三日附秘第七七一號  
往信參照)ニ關シ八十六待避驛ニ於ケルソ聯官憲ノ暴狀ヲ説明シ

駐哈爾濱外務局特派員公署

哈外 №148

527

モ我方領事館勤務員ニ對スル斯ノ如キ非禮極マル所謂検査ハ言語同  
斷ニテ我方ノ痛憤措ク能ハサル處ナリト述ヘ強硬ニソ側ノ反省ヲ促  
セル處ゴハ過般ノ滿洲里ニ於ケルクズネツオフ前總領事代理ノ荷物  
検査ヲ持出シ八十六驛ニ於ケル検査ノ嚴重化ハ右ニ對スル報復手段  
トシテ多分ニ有リ得ヘキコトナリト反駁ヲ試ミル處アリタリ  
右報告ス

本信寫送付先  
武領、赤領、滿辦  
日領、哈機

駐哈爾濱外務局特派員公署

哈外 №148

526



東亞周

歐亞局

公領機密第七四九號

昭和十三年九月十七日

在 哈 爾 濱

總領事 鶴 見 憲

在 滿 洲 國

特命全權大使 植 田 謙 吉 殿

在 武 市 滿 洲 領 事 館 傳 人 ニ 對 ス ル 諜 報 官 憲 ノ 追  
害 狀 況 等 ニ 關 ス ル 件

本 件 ニ 關 シ 今 般 駐 哈 外 務 局 特 派 員 ヲ リ 九 月 三 日 附 同 局 長 官 宛 秘 第 七 七  
一 號 公 信 寫 送 付 越 セ ル ニ 付 何 等 御 參 考 迄 別 添 ノ 通 進 達 ス  
本 信 寫 送 付 先

別 紙 添 付

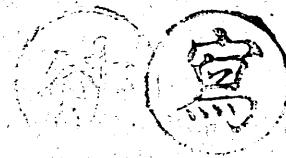
昭和十三年九月廿三日



528

529

外 務 大 臣  
在 蘇 大 使  
滿 洲 星



秘第七一號

康德五年九月三日

別紙添付

駐哈爾濱外務局特派員  
下村信貞

外務局長官  
運升殿

武領備人ニ對スルソ側官憲ノ迫害狀況  
等報告ノ件

本件ニ關シ駐武市領事館備人潘玉崑及齊金甲ノ兩名カ今般休暇歸國  
ノ途次九月一日當署ニ立寄レル際當署ニ於テ聽取セル要旨何等御察  
考迄左記ノ通報告申進ス

本信寫送付先

哈機、日領

駐哈爾濱外務局特派員公署

哈外 №148

530

ソ聯官憲ノ武領備人迫害狀況

武領備人潘及齊陳述

一、武市領事館勤務中ノ情形

領事館ヲ出レハソ側ニ拘致サレル處アル爲領事及副領事ノ命ニヨリ一切自由外出ヲ爲サス已ヲ得サル事情アル場合（例ヘハ入浴ニ赴ク時）ハ必ス副領事若クハ主事ト同行ス又余等カ領事館外側ノ窗ヲ締ムル際ニモ主事ハソ側ノ拘致ヲ警戒スル爲傍ニテ見張ヲ爲シ居リタリ

二、食糧問題

現地ニ於テ購入シ得ルモノハ只黑麥粉ノミニシテ米ハ際領事カ入蘇セル時四袋ヲ携入シタル外日本領事館ヨリ米四俵ヲ貰ヒ受ケ辛クシテ當座ノ用ヲ充シ居レリ野菜ニ關シテハ昨年ノ苦々シキ經驗ニ鑑ミ今年ハ館内ニ於テ可及的ニ野菜ヲ栽培シ居ルヲ以テ冬期中モ茶食ニ事缺カサルヘシ

三、列車乗車券ノ入手ニハ平素ソノ購入申込後大抵三、四日ヲ要シ居ル處今則ハ僅々一日半ヲ要シタルノミナリキ尙乗車券ヲ即買セサル理由トシテ常ニ空席皆無ナリト稱シ居ルモ實際ハ列車内ニ於ケル尾行者ノ位置ヲ安排スルタメナリ

四、歸國途中ニ於ケル尾行行情況

私服警官三名兩名ノ近側ニ在リテ一步モ離レス黙々トシテ監視ヲ續ケタリ尙滿人ニ對スル尾行者ハ殆ント全部滿語ニ通スルモノノ如シ

五、國境ニ於ケル検査

今回余等出國ノ際ノ八十六待避驛ニ於ケルソ側官憲ノ余等ニ對スル異辰振りハ實ニ言語道斷ニシテ旅客ニ對スル検査ト云フヨリモ寧ロ故意的ノ侮辱ナリ當時ゲ・ベ・ウハ潘ヲ侮辱嘲笑シツツ全身ノ着物ヲ剝取り全裸ト爲シ思フ存分愚弄セルノミナラス本人所持ノ腕中時計及ヒ置時計ヲ滅茶苦茶ニ破壊セリ齊ニ對シテハ裸ニハセサリシモ其ノ検査振りハ潘ニ對スルト全ク同様ニテ同人所持ノ

古着ヲバラマニシテ之ヲ地上ニ散亂セシムルノミナラス鶏ノ羽枕  
ノ縫目ヲ破リ其ノ中ノ羽毛ヲ引出シテ空中ニ飛散セシメタルヲ以  
テ齊ハ巳ヲ得スソノ枕ヲ遺棄シテ歸來セル次第ナリ

(以上)

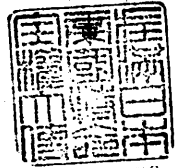
歌亞局

公機密第一二二〇號

昭和十三年九月十七日

在滿洲國

特命全權大使 植田 謙



外務大臣 宇垣 一成 殿

赤塔領事館田淵雇員ノ運輸資格剝奪ニ關スル件

本件ニ關スル外務局長官宛駐赤塔領事發電報寫御參考迄別添送付ス

惟ニ右「ソ」側ノ措置ハ查證問題ノ行詰レル今日滿側トシテ相當ノ苦痛ナルカ右ハ或ハ九月十二日附公機密第一一九七號及九月十四日附公機密第一二一五號拙信報告滿洲里領事館員ノ「ソ」領ト

在滿日本帝國大使館

(13,460,000枚)

535

ノ自動車連絡許可方(本件ニ付テハ外務局側ニ於テ許可差支ナキ旨關係當局ノ内諾ヲ得居ル趣ナリ)要求中ノ「ソ」側カ右實現ヲ促進センカ爲採レル措置ナラスヤト思考セラル尙田淵運轉手ハ軍人ニハ非サル趣ナリ

右報告旁々申進ス

本信寫送付先 哈爾濱 滿洲里

在滿日本帝國大使館

(13,460,000枚)

534



康徳五年九月十三日着駐赤塔領事發來電寫

當地ソ側官憲ヨリ當館田淵雇員ノ自動車運轉免狀書換方申越セルヲ以テ九月十日萩野主事ト共ニ民警署ニ出頭セントコロ左記理由ニヨリ今後半年間運轉資格ヲ剝脱スル旨申渡サレタリ

(イ) 運轉免狀ノ期限經過セルコト

(ロ) 自動車運轉ニ際シ常ニ規定以上ノ速力ヲ出シ且事故ヲ起ス危険アルコト

右ニ關シ田淵雇員ハ平素ヨリ特ニ注意シ服務シアルヲ以テ運轉法規ヲ犯スガ如キコトナキハ當方ノ確認スル處ニシテ從來一回ノ事故ヲモ起シタルコト無キハ之ヲ證明シテ餘リアリ又(イ)ニ關シテハ運轉免狀ニ有効期限ノ記載ナク當館ニ於テ調査セルトコロ五月初旬當地新聞ニ自動車運轉免狀書換ニ關スル佈告(五月十五日迄ニ之ヲ爲ササルモノハ運轉資格ヲ失フモノトス)掲載セラレアルヲ發見セリ惟フニ本件ニ關シソ側ヨリ右期限ヲ經過スルコト四箇月後ノ今日迄何等ノ通告ナク突然此舉ニ出テタル

在滿日本帝國大使館

(13.4.60,000枚)

ハ先般哈爾濱ニ於ケルソ聯邦領事館員ノ館前警官派出所ニ對スル暴行事件ノ際該館員ニ對シ退去要求ヲナシタル報復手段トモ思料セラル

在滿日本帝國大使館

(13.4.60,000枚)



秘

電信寫

|   |   |   |   |    |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|----|---|---|---|---|---|
| 月 | 日 | 北 | 日 | 燃料 | 農 | 海 | 陸 | 本 | 印 |
|   |   | 鐵 | 石 | 局  | 林 | 軍 | 軍 | 陸 | 印 |
|   |   | 北 | 北 | 朝  | 道 | 務 | 務 | 務 | 務 |
|   |   | 石 | 石 | 鮮  | 道 | 務 | 務 | 務 | 務 |
|   |   |   |   | 總  |   |   |   |   |   |

昭和13 二七五三一 暗

東京 九月十九日發  
本領 十九日發

濱田大使

字頭 濱田大使  
電六六六號

官電合第 二七五九號 及 官電第一八三號ニ付シ

十日日「コンブツカフ」總領事代下村特使自ヲ來訪ノ際在官時  
人ニ對スル日領官憲ノ態度ニ關シ執拗ニ論及シ右ハ該局幹部人ノ亦  
總ヲ不可能ナラシメントスル日領側ノ計策的所爲ナリトシ該側ノ  
答ヲ求メ速ニ滿額以進ノ停止サレシコトヲ要求セルニ付下村ハ本件  
ニ關シ今總領事會ヲ召集タル結果ニ依レハ該局ノ百分ハ多分ニ事實ヲ蓋  
隠及至諒察セルモノト看做サルル處今一應乃念調處スヘシト答ヘタ

ルカ觀ニ「ゴ」ハ滿洲里ノ經濟力發展させサレテハ該局ハ  
總領事會ヲ中止スルノ已ムカキニ至ルヘシト述ヘタルニ付下村  
ハ過去ニ關シテハ我方ニモ多大ノ苦分アルモ今後ハ正當ナル狀態  
供タルヘキヲ希望且備スル旨述ヘ置キタル事ナリ爾ニ滿洲里ノ經濟  
力發展させサレテス云々トハ往復第六六五號ノ總領事會指スモノナルハ  
該局幹部等ハ該局員ニ對シテ

秘

|     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 陸軍省 | 海軍省 | 陸軍省 | 海軍省 | 陸軍省 | 海軍省 | 陸軍省 | 海軍省 | 陸軍省 | 海軍省 |
| 陸軍省 | 海軍省 | 陸軍省 | 海軍省 | 陸軍省 | 海軍省 | 陸軍省 | 海軍省 | 陸軍省 | 海軍省 |
| 陸軍省 | 海軍省 | 陸軍省 | 海軍省 | 陸軍省 | 海軍省 | 陸軍省 | 海軍省 | 陸軍省 | 海軍省 |
| 陸軍省 | 海軍省 | 陸軍省 | 海軍省 | 陸軍省 | 海軍省 | 陸軍省 | 海軍省 | 陸軍省 | 海軍省 |
| 陸軍省 | 海軍省 | 陸軍省 | 海軍省 | 陸軍省 | 海軍省 | 陸軍省 | 海軍省 | 陸軍省 | 海軍省 |
| 陸軍省 | 海軍省 | 陸軍省 | 海軍省 | 陸軍省 | 海軍省 | 陸軍省 | 海軍省 | 陸軍省 | 海軍省 |
| 陸軍省 | 海軍省 | 陸軍省 | 海軍省 | 陸軍省 | 海軍省 | 陸軍省 | 海軍省 | 陸軍省 | 海軍省 |
| 陸軍省 | 海軍省 | 陸軍省 | 海軍省 | 陸軍省 | 海軍省 | 陸軍省 | 海軍省 | 陸軍省 | 海軍省 |
| 陸軍省 | 海軍省 | 陸軍省 | 海軍省 | 陸軍省 | 海軍省 | 陸軍省 | 海軍省 | 陸軍省 | 海軍省 |
| 陸軍省 | 海軍省 | 陸軍省 | 海軍省 | 陸軍省 | 海軍省 | 陸軍省 | 海軍省 | 陸軍省 | 海軍省 |

電信寫

九月二十日

陸軍省 二七六四八 附 東京 九月二十日 後發  
 本省 二十日夜着  
 植田大使

往電第六六六號ニ關シ  
 十七日「ゴルブツオア」下村ヲ來訪シ十六日午前八時ヨリ日滿警察  
 機關ヲシテ蘇聯領事館、蘇聯病院、蘇聯中學建物等ヲ總テ包圍シ  
 出入者全部ノ身ヲ検査並ニ訊問ヲ行ヒ「ヨコフ」副領事ヲ始メト  
 シ領事館員ニ對シテモ滿洲國外務省局發給ノ身分証明書ヲ提示セル  
 ニ拘ハラス強制的ニ同壕ノ取扱ヲ爲シ上官ノ包圍ハ午前十一時ニ至  
 ル現在迄壕中ナル旨進ハ抗議スルト共ニ莫斯科ノ訓令ヲ依テ右滿

蒙ノ暴戾ニ對シ再進スル權利ヲ保留スルモノナルニ付之ニ依リ滿蒙  
 兩國間ニ於テ不協定ナル事件ヲ生スルコトアルモ其ノ責ハ滿蒙ニ  
 在リト願ル所ナリ予テ以テ聲明セルニ付下村ハ警察當局ヨリ或  
 ル種ノ要領ヲ發給シ犯罪捜索ノ必要上全市ニ亘リ特殊處置ニ出テタリ  
 トノ報告ニ接セルノミニテ未ダ詳細ヲ詳ラサルヲ以テ一應真相ヲ  
 查スヘキモ右ハ特殊非常處置ニシテ今後乘リニ斯ルコトナカルヘキ  
 ヲ信スル次第ナリト述ヘタル處「ゴ」ハ右ハ全夕蘇聯特ニ蘇聯領  
 事館ヲ故意ニ狙ヒタルモノニシテ從來屢々蘇聯力警告シ來レル日滿  
 官憲ノ齟齬人ニ對スル組織的謀略ノ現レニ外ナラスト煩リニ敬聞ケ  
 ル趣ナリ

使館致ハ其ノ後包圍ヲ解ケル由  
 略會致ハ蘇、滿洲里ヘ轉寄セリ

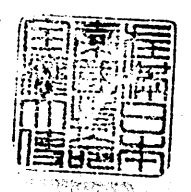
昭和十三年九月廿一日  
別紙添付

公機密第一二三二號

昭和十三年九月二十一日

在滿洲國

特命全權大使 植田 謙



東亞周

外務大臣 宇垣 一成 殿

赤塔領事館田淵雇員ノ運轉資格剝奪ニ關スル件

本件ニ關シテハ義ニ報告シ置タル處更ニ外務局ヨリ同局長官宛駐  
赤塔領事發報告寫送付越セルニ付御參考迄別添送付ス

本信寫送付先 哈爾濱 滿洲里

在滿日本帝國大使館

(13, 4, 60, 000枚)

540

康德五年九月十五日着赤塔領事來電寫

赤塔州執行委員會議長補佐セフチエンコニ對シ田淵雇員ノ運轉資  
格剝奪ニ關シソ側ノ主張スル理由(1)項ニ就テハ一層ソ側ノ誠意ア  
ル措置ヲ要望スルト共ニ(2)項ニ對シテハソ側申出ハ事實無根ナル  
ニ付異議ヲ申述ヘ此レニ對スル回答ヲ要求シ置ケリ  
セハ議長代理ニ報告ノ上回答ナスヘキ旨約セルモ本件ハ不當ナル  
事明瞭ナルヲ以テセノ回答ヲ俟チ近ク歸任スヘキ議長代理ニ對シ  
正式抗議ヲナス方針ナリ

在滿日本帝國大使館

(13, 4, 60, 000枚)

541

歌臣局

第一課

昭和十三年十月七日  
別紙添付

公機密第一三〇七號

昭和十三年十月七日

在滿

特命全權大使 植田 謙

外務大臣公爵近衛 文麿 殿



ソ聯官憲ノ赤塔領事館主事逮捕訊問ニ關スル件

本件ニ關スル國務總理大臣宛赤塔領事發電報寫御參考迄別添送付ス

本信寫送付先 哈爾濱、滿洲里

在滿日本帝國大使館

(13. 4. 60,000枚)

542

康德五年十月三日附赤塔領事發電報寫

十月二日午後三時本館萩野、西北兩主事所用ニテ外出セル處市中ニ於テ民警正服用ノ尾行者ハ兩名カ身分證明書ヲ携行セサル理由ノ下ニ實力ヲ以テ逮捕第一赤塔民警署ニ強制連行シ各別室ニ於テ兩主事ノ經歷、任務及領事館業務期間ニ就キ罪人ニ等シキ苛酷峻烈ナル訊問ヲ行ヘリ

之ニ對シ兩名ハ重要事項ニ觸レルコトナク適當ニ回答セルカ萩野主事ハ翌三日午前五時、西北主事ハ午前八時夫々訊問ヲ終了午前九時前後シテ歸館セリ兩名共身体ニ何等異狀ナシ

尙本件ハソ側ノ計畫的行爲ナルコト明瞭ニシテ假令兩名カ旅券ヲ携行セリトスルモ何等カノ口實ノ下ニ實力行使ノ暴擧ニ出テタルナラント判斷セラル

因ニ當地外交代表ハ當方トノ面談ヲ回避シアルモ嚴重抗議ヲ提起スル豫定ナリ

在滿日本帝國大使館

(13. 4. 60,000枚)

543



公領機密第八一六號  
昭和三十二年十月十八日  
第一課 別紙添付  
昭和三十二年拾月廿四日接

東亞局

在滿洲國

特命全權大使 植田謙吉 殿

在哈爾濱

總領事 鶴見 憲

在武市滿側領事館備人王ノ行衛不明事件及在「チタ」領事館ニ對スル蘇側官憲ノ新壓迫行爲ニ關スル件

本件ニ關シ今般駐哈外務局特派員ヨリ十月十一日附同局長官宛秘第八九〇號公信寫送付越セルニ付何等御參考迄別添ノ通進達ス  
本信寫送付先

外務大臣  
在蘇大使

544-2

7x

544-1



秘第八九〇號

康德五年十月十一日

駐哈爾濱外務局特派員

下村 信貞

外務局長官  
蔡運 升 殿

武市領事館備人王ノ行衛不明事件及赤塔  
領事館ニ對スルソ聯官憲ノ新壓迫行爲ニ  
關スル件

十月六日及同七日附貴電ニ係ル本件ニ關シ十月七日日本官ソ聯總領事  
代理ゴルブツオフヲ招致シ會談シタル次第ハ同日附往電ヲ以テ概要  
報告由上置ケル處右詳細爲念左記ノ通追報申進ス

駐哈爾濱外務局特派員公署

哈外 №148

545

記

下村

本日ハ查證其他ノ諸懸案ヲ論議シ以テ些少ナリトモ兩國關係  
ノ改善ニ努力致度意向ナリシ處ソ側ノ態度力出テテ増々本官  
ノ斯ル希望ヲ打破セントスルモノノ如クナルハ双方ノ爲頗ル  
遺憾ナリ近來ソ側ノ在ソ滿洲國領事館ニ對スル暴狀ハ日ヲ趁  
フテ激烈ヲ加ヘ居リ先ツ武市ニ於テハ去ル二日館用自動車機  
關部ノ盜難事件發生後幾莫モ無クシテ領事館備人ノ失踪事件  
發生セリ即チ武市領事館備人王ハ十月五日午前九時頃普段ノ  
通中食用食料品買出ノ爲バザールニ出向キタルカソノ儘消息  
ヲ絶チ未タニ歸館セサル模様ナリソ聯官憲ノ嚴重極マル監視  
及尾行下ニ於テ斯ノ如キ奇怪事件發生セルハ由々シキ問題ナ  
ルニ付至急同人ヲ搜索シ歸館セシムル様措置方要求スルモノ  
ナリ

本官ハ本件ニ關シ何等ノ情報ヲ有セサルカ私見ニ據レハ同備  
人ハ例ノ自動車機關部盜難事件ノ犯人ナリシ爲ソノ發覺ヲ恐

駐哈爾濱外務局特派員公署

哈外 №148

546

下村  
レ自ラ逃亡ヲ企テタルモノニ非スヤトノ疑念ナキヲ得ス若シ  
滿側ニソノ目星アラハ本官ハ之ヲソ聯官憲ニ通報シ犯人搜索  
ノ一助タラシムルコトト致度孰レニスルモ貴方申出ハ之ヲ中  
央ニ報告スヘクソ聯官憲ハ同人ノ搜索方適當措置ヲ講スヘシ  
貴官カ王傭人ヲ恰モ自動車事件ノ犯人ナルカノ如キ口吻ヲ弄  
セラハ極メテ不謹慎ナル態度ト云フヘク常識アル者ノ口  
ニスヘキコトニ非ス若シ我方ニ謂フカ如キ容疑アリトセハ何  
ヲ好ンテソ側ニ斯ル申出ヲ爲ス筈アラシヤ以後斯ル不謹慎ナ  
ル言辭ハ嚴ニ慎シマレ度  
次ニ赤塔ニ於テハ領事館主事逮捕事件ト相前後シ左ノ如キ新  
タナル壓迫手段實行セラレ居レリ  
一十月二日以來領事館前立哨民警ハ三名ニ増員セラレタルカ  
彼等ハソノ態度粗野傲慢ヲ極メ内一名ハ領事館隣接家屋ノ  
屋上ニ在リテ絶エス領事館内ヲ俯瞰監視シ居レリ  
三十月二日以來領事館建物一棟ニ對スル電氣ノ供給ヲ斷絶セ

駐哈爾濱外務局特派員公署

哈外 №148

ゴ  
ルカ同四日ニ到リ漸ク之ヲ復舊セリ  
三同二日ヨリ領事館ニ對スル新聞ノ配達ヲ一切停止セリ  
四同二日以來領事館内電話ヲ全部切斷セリ而シテ現地ソ聯官  
憲ハ一方右ノ如キ非道極マル不法壓迫ヲ敢テ爲シツツ他方  
我方領事トノ面會ヲ極力回避シ居レリ  
以上ニ對シ不取敢斷乎抗議スルト共ニ斯ル暴虐行爲ヲ即時  
停止スルヤ否ヤ並ニ今後斯種行爲ヲ反覆セサルヘキ確乎タ  
ル保障ヲ爲スヤ否ヤニ關シソ側ノ速カナル明答ヲ求ム尙若  
シ右要求ニシテ容レラレス滿側力斷乎タル適當手段ヲ採ラ  
サルヲ得ス爲ニ事端ノ紛糾ヲ來スコトアリトスルモ其ノ全  
責任ハソ側ニ在ルヘキ旨豫メ聲明ス  
本件ニ關シテモ本官ハ何等ノ情報ニ接シ居ラス仍テ貴官ノ申  
出カ果シテ事實ニ合致スルモノナリヤ否ヤ調査ノ上回訓ヲ俟  
チ不日本件再論スルコトト致度カ消燈事件ハ一時的現象ナリ  
シニ徴シ技術的原因ニ因ルモノト思ハレ

駐哈爾濱外務局特派員公署

哈外 №148

尙從來貴我間ニ於ケル事態紛糾化ノ火蓋ハ常ニ滿側カ切レルモノニシテ特ニ最近滿洲國內ニ於ケル大規模且枚舉ニ違ナキソ聯居留民迫害ノ事實ハソノ顯著ナルモノナリ其ノ他ソ聯領事館ハ白衛兵ノ包圍下ニ置カレ外來者ノ領事館出入ハ禁遏セラレ館員ハ出入ノ都度停止ヲ命セラレ住所、任務及如何ナル人士ト連絡ヲ有スルヤ等々非禮ナル訊問ヲ被リ居リソノ窮狀ハ在ソ滿側領事館ノ夫レト同日ノ談ニ非ス貴方ハ口ニ兩國關係ノ改善云々ヲ唱ヘラルルモ現實ハ滿側ノ敵意ニ滿テル對ソ煽動ト事態ノ惡化アルノミ從テソ聯政府及ソ聯官民ノ輿論カ斯ル極惡ノ情態ニ對シ冷靜タリ得サルハ當然ニシテ貴我ノ事態カ滿側ノ所謂平等主義ニ依リ今後平等ニ惡化スルコトアルモノ側ハ敢テ之ヲ恐ルルモノニ非サルト共ニ滿側ノ態度ニシテ毫モ改善ヲ見サルニ於テハ或ハ兩國領事館ノ存續妥當性如何ニ關シソ側トシテハ考慮セサルヲ得サルヤモ知レス

哈外 №148

駐哈爾濱外務局特派員公署

550

以テ辯護シ去ラントセララルルカ然ラハ領事館主事ヲ逮捕シ徹宵暴戾ナル取調ヲ行ヒ館ノ電話ヲ切斷シ新聞ノ配達ヲ停止スル等々ノコトモ舉ケテ之ヲ所謂技術的原因ニ歸セントスルモノナリヤソ側カソノツモリナラハソレニテモ差支ヘナシ

次ニ貴我領事館ノ蒙レル迫害乃至壓迫ノ歴史ヲ客觀的ニ檢討スレハソノ非何レニ在リヤ將又何レカ發端者ナリヤハ自ラ明白ナリ又ソ側ハ今モ尙滿側ノ壓迫云々ヲ努メテ高調セントスルモ右ハ多分ニ誇張セラレ居ルノ嫌ヒアルハ遺憾ナリ

夫ハ夫レトシテ何等罪無キ領事館主事ヲ逮捕シ徹宵恰モ軍法會議ニ於テ重罪犯人ヲ訊問スルカ如キ苛烈極マル取調ヘヲ爲シ一例ヲ舉クレハ所謂ソ聯民警ナルモノカ何ノ權利アツテ何ノ意圖ヲ藏シテ武市滿洲國領事館ノ撤廢如何ニ關シ訊問セルヤ其ノ他實ニ奇怪極マル訊問アリタルカ右訊問内容ハ或ハ之ヲ天下ニ發表スル時期到來スルヤモ知レサルコトヲ附言シ置ク或ハ館用自動車ヲ運轉不能ナラシメ電燈ヲ消シ新聞ノ供給

哈外 №148

駐哈爾濱外務局特派員公署

549



ヲ斷テ果テテハ領事館内電話ヲ全部切斷スル等々借問ス抑々  
斯ル暴狀ハ天下奈邊ニ在リヤ又在滿洲國ソ聯領事館ハ斯ル「  
平等待遇」ヲ強ヒテ希望セン、スルモノナリヤ否ヤ以上ニ對  
シ即答アリ度シ

赤塔領事館主事ノ訊問内容ノ發表云々ハ威嚇ナランカソ俱ハ  
滿洲國官憲ノソ聯居留民壓迫及ソ聯領事館包圍事件等ニ關シ  
ヨリ重大ナル發表材料ヲ多量ニ保有シ居リ毫モ貴方ノ威嚇ニ  
脅ユルモノニ非ス又相互平等主義モ何等差支ヘナキカ之ハ寧  
ロ滿側ニトリ不爲ナラン而モ壓迫ノ發端ハ滿側ニ在ルヲ以テ  
事態惡化ノ責任モ又滿側ニ在リ滿側ハ兎角惡例ノミヲ示シ未  
タ嘗テ善キ例ヲ作リタルコトナキ處「惡例ハ傳染ス」ノ譬ヘ  
通り右ハ相當ノ應報ナクシテ濟ムモノニ非ス從テ滿側カ苟モ  
兩國關係ノ改善ヲ希望セラルルナラハ先ツ速ニソ聯居留民ニ  
對スル壓迫行為ヲ停止シ正常状態ヲ復活シ以テ善キ例ヲ示ス  
ヘキナリ尙先ニ技術的云々ト云ヘルハ消燈事件ノミニ付私見

駐哈爾濱外務局特派員公署

下村  
ヲ述ヘタルニ過キス  
ソ側コソ果シテ善キ例ヲ示シタルコトアリヤ  
若シ夫レ領事館主事ヲ逮捕シテ軍法會議宛ラノ取調ヘヲ行ヒ  
領事館ノ電燈、電話ヲ切斷シ新聞ノ配給ヲ停止スル等凡ソ文  
明國ニ於テハ類ヲ絶スル蠻行カ「善キ例」ナラハ我又何ヲカ  
云ハンヤ

大仕掛ノソ聯居留民狩リ國籍離脱ノ強要職業ノ剝奪及住宅ノ  
追出シ果テハ領事館ノ包圍等滿側ノ示セル惡例抄カラス殊ニ  
最近當地官憲ハ商人ノ領事館前ノパン及牛乳等ノ送届ケヲ差  
止ムルニ到レルニ付市中ニ於ケルパン不足ノ狀況ニ鑑ミ右ノ  
如キ障害ヲ除去スル様措置セラレ度  
次ニ查證問題ニ關シ貴方カ請訓ニ名ヲ藉リテ未タニ何等ノ具  
體案ヲ示ササルノミナラス外交クリエーノ出國查證ヲスラ差  
止メサナキタニ困難ナル事態ヲ一層紛糾化セシメ加フルニ本  
件ヲ領事館壓迫等ノ問題ニ結ヒ付ケソノ論議ヲ回避セントス

駐哈爾濱外務局特派員公署

ルハ本件解決ヲ意識的ニ遷延セシメントスルモノト看做シ得  
ヘクソ側カ領事館包圍事件ノ最中ニ於テスラ查證問題ノ審議  
ニ些カモ難色ヲ示シタルコトナキニ反シ貴方カ斯ル態度ニ出  
スル以上本件ノ紛糾ノ責任ハ滿側ニ在リ  
本官乃至滿側カ查證問題審議ノ希望ヲ有シ居ルハ貴官ノ知ラ  
ルル處ナリト信ス又之ヲ拒否セシコトモナシサレト假ニ當地  
ソ聯總領事館カ電話ヲ切斷セラレ自動車ヲ奪ハレ電燈ハ消サ  
レ新聞ハ止メラレ果テテハ館員カ逮捕サレ軍法會議ニモ等シ  
キ取調ヲ受ケ等シテ完全ニ館務ノ遂行ヲ蹂躪セラレ居ルモノ  
トシテ尙貴官ハ查證問題等ヲ論スル氣分乃至位置ニ立チ得ル  
ヤ否ヤ

ゴ  
一事件ヲ他ノ問題ニ引懸ケソノ審議ヲ回避スルニ於テハ今日  
ハ領事館問題明クレハ國境事件等々ト回避ノ口實ハ盡クル處  
ヲ知ラサルヘク斯ノ如キハ意識的遷延策ニ外ナラス仍テ先ツ  
查證問題ヲ先決シ領事館ノ本國トノ連絡ヲ復活シ以テ爾餘ノ

駐哈爾濱外務局特派員公署

哈外 №148

553

下村  
諸懸案ノ解決ヲ容易ナラシムル様希望ス  
當方ハ先ツ當方ノ上述セル領事館壓迫問題ニ關スルソ聯政府  
ノ可及的速カナル回答ヲ求ムルモノナリ至急中央ニ報告アリ  
度シ  
本日ハ之ニテ打切ルヘシ  
ゴ  
モスコ―ニ報告ハスヘシ

本信寫送付先  
赤領、武領、滿辦  
哈機、日領、哈憲  
濱警、哈警

駐哈爾濱外務局特派員公署

哈外 №148

554

電信寫

秘

電信寫

|   |   |   |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
|---|---|---|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 月 | 日 | 北 | 燃料局 | 農林部 | 逓信部 | 海軍省 | 陸軍省 | 陸軍省 | 陸軍省 | 陸軍省 | 陸軍省 | 陸軍省 | 陸軍省 | 陸軍省 | 陸軍省 | 陸軍省 | 陸軍省 | 陸軍省 | 陸軍省 | 陸軍省 |
|   |   |   | 總務  | 總務  | 總務  | 總務  | 總務  | 總務  | 總務  | 總務  | 總務  | 總務  | 總務  | 總務  | 總務  | 總務  | 總務  | 總務  | 總務  | 總務  |

近衛外務大臣宛  
第七四三號

在武市清洲國領事務本官宛電報

青藤ナル録録ノ感迫ニ依リ當館ノ存續危殆ニ瀕シツアル一方新京トノ電信連絡亦遮斷シレタルモノノ如シ就テハ新京へ轉電方御依頼スルト共ニ窮餘費館ヲ煩ハスヲ陳謝シ併セテ本電ノ着否御伺電請フ

(一)

近衛外務大臣宛  
第七四三號

在武市清洲國領事務本官宛電報

青藤ナル録録ノ感迫ニ依リ當館ノ存續危殆ニ瀕シツアル一方新京トノ電信連絡亦遮斷シレタルモノノ如シ就テハ新京へ轉電方御依頼スルト共ニ窮餘費館ヲ煩ハスヲ陳謝シ併セテ本電ノ着否御伺電請フ

(一)

556

555

秘

電信寫

近衛外務大臣

第七五三號

在電第七四二號ニ附シ

三十一四五

十月廿六日 午後

福田大臣

二十四日下村「ゴルブツオフ」ヲ始メ武市領事館宛電報不配達及大  
 石島領事館宛ノ電報ニ付糾弾セル處「ゴル」ハ右ハ統制力増進ヲ期  
 ニ停止シ今後ヲ保障セス遂ニ依然續行サレ居ル爲ナリト噴キテ  
 轉達要請電ヲ強調シテ教團キタルニ依リ下村ハ前報トシテハ統制  
 ノ暴狀カ即時停止サルレハ直ニ剛領事館ノ位置其ノ領ニ關シ制々  
 ニ具體的ニ嚴格ナル相互主義ノ下ニ解決スル用意アル旨進ヘタル

「ゴル」ハ統制ノ方針ハ不動ニシテ對案ハ既ニ精細ニ提示済（行動往  
 電報参照）ニシテ之以上何等附加フヘキ所ナシ諸條關係ハ現在衆會  
 有ノ重大危險ニ立ツモノナルカ所ル事態ノ阻止及今後ニ付テハ諸條  
 カ總テ責ヲ負フヘキモノナリト述ヘタリ依テ下村ハ右ニ對シ總宣反  
 駁ノ上兎ニ角曾談内<sup>ヲ</sup>莫斯科ニ傳達諸條申出ニ對シ極力テ進ニ調  
 客方要求シ置ケル總ナリ  
 尚「チタ」及武市ヨリハ其ノ後何等情報ナキ總ナリ  
 急、哈爾濱、油浦里へ轉電セリ

5  
26



歐亞局

公領機密第八三一號

昭和十三年十月二十六日

在 哈 爾 濱

總領事 鶴 見 憲

在 滿 洲 國

特命全權大使 植 田 謙 吉 殿

「チタ」及武市ニ於ケル滿洲國領事館員逮捕  
事件ニ關スル件

本件ニ關シ今般駐哈外務局特派員ヨリ十月十四日附同局長官宛秘第九  
二一號公信寫送付越セルニ付何等御參考迄別添ノ通進達ス  
本信寫送付先 外務大臣 在蘇大使

昭和十三年拾月廿壹日  
別 紙 添 付

558

秘 寫

秘第九二一號  
康德五年十月十四日

駐哈爾濱外務局特派員  
下 村 信 貞

外務局長官  
蔡 運 升 殿

赤塔及武市領事館員逮捕事件ニ關スル件

本月十一日ソ聯總領事代理ゴルブツオフ他用（十月十三日附秘第九一八號往信ヲ以テ報告置ノ件）ヲ以テ本官ヲ來訪セル際本件ニ關シ會談シタル次第ハ同日附電報ヲ以テ不取敢概要報告申上置ケル處ナルカ右詳細左ノ通爲念追報申進ス

本信爲送付先 武領、赤領、滿辦  
哈機、日領、哈憲、濱警、哈警

駐哈爾濱外務局特派員公署

哈外 №148

559

記

下村 轉シテ貴官ニ伺ヒ度キコトアリ前回ノ會談（十月十一日附秘第八九〇號往信參照）

ニ於テ本官ハ在ソ滿洲國領事館ニ對スルソ聯官憲ノ迫害壓迫ニ關シ要求ヲ提起シ置ケルカ右ニ對スルソ側ノ明確ナル回答ヲ求メ度右ニ關シテハモスコヨリ未タ何等ノ回訓ニ接シ居ラサル旨明確ニ回答ス

下村 然ラハ單ニ若干ノ新事實ノミヲ參考迄ニ申述フヘシ

一 十月七日午前武市領事館大石副領事及林雇員ノ兩名ハ館用自動車機關部盜難事件（十月十一日附秘第八九二號往信參照）ノ參考人トシテ警察署ニ出頭セル處約一時間ニ亘リソノ儘抑留セラレタリ

二 同日午後四時泉副領事ハ劉主事ヲ伴ヒ外出シタル處兩名共正服二名及私服二名ノ警官ニ逮捕サレ警察署ニ連行サレ同夜十二時迄留置セラレタリ

三 十月四日赤塔ニ於テ領事館傭人蒙ハ所用ニテ外出セル處

駐哈爾濱外務局特派員公署

哈外 №148

560

警官ニ逮捕セラレ翌日午前七時辛ウシテ釋放セラレタリ  
四同五日赤塔ニ於テ田淵雇員（自動車運轉手）カ領事館ニ赴  
クヘク館門ヲ出スルヤ否ヤ警官ハ同人ヲ逮捕シ翌朝七時迄  
警察署ニ留置セリ

以上ノ如ク在ソ滿洲國領事館員ハ總テ一步館外ニ出スルヤ否ヤ  
直チニ逮捕セラレ軍法會議ニ等シキ奇怪極マル訊問ヲ蒙ルノ  
現況ニ在リ而モ右ノ外依然トシテ電話ハ切斷セラレ水其他食料  
品及日用品等ノ供給ハ斷タレ居リ剩ヘ赤塔ソ聯官憲ハ我方領事  
カ館員ノ身邊保全ノ爲ノ最少限度ノ保障ヲ求ムヘク再三面會ヲ  
申込メルニモ不拘飽ク迄面會ヲ故意ニ回避シ居レリ  
本官ハ前述ノ通前同ノ會談ニ於テソ側ノ明答ヲ求メ置ケルカソ  
側ハ絛上ノ舉態ヲ即時正常狀態ニ還元セシムルヤ否ヤ又今後ノ  
絶對的保障ヲ爲スヤ否ヤニ付今ハ只一刻モ速カナルソ側ノ正式  
回答ヲ待ツノミ  
而シテ極最近ノ中ニソ側ヨリ回答ナキカ若クハソ側ノ回答ニシテ

駐哈爾濱外務局特派員公署

哈外 №148

561

不満足ナル場合滿側カ已ムヲ得ス自由手段ヲ採用スルコトニ  
依リ萬一重大ナル局面ノ展開ヲ見ルコトアルモノノ全責任ハ  
ソ側ニ在ル旨今一度爲念聲明スルモノナリ  
尙茲ニ全ク個人的ニ貴官ノ注意ヲ喚起シ置キタキハ當地ニ於  
ケル過般ノ所謂警官ノソ聯總領事館包圍事件ハ當時再三説明  
シ置ケル通全ク或種ノ突發的重大犯罪搜索ノ爲ノ非常處置ニ  
シテ當時或ハソ聯人カ嫌疑ノ對象トナリシヤハ知ラサルモ右ハ  
北滿全般ニ於テ各民族ヲ通シテ行ハレタルモノ、ソノ間微塵モ政  
策的意味合ナク況ンヤ謂フカ如キ煽動行爲ニ非サリシハ本官  
ノ斷言シテ憚カラサル處ナルト共ニ自分トシテモ右事件調整  
ノ爲ニハ渺クトモ主觀的ニハ大イニ努力ヲ拂ヘル次第ナリ然  
ルニ若シモ貴官ニシテ右ヲ誇大乃至歪曲シテ報告シタリトス  
レハ貴官乃至兩國關係ノ爲頗ル遺憾トスルモノナリ  
貴官ノ申出ハ極メテ重大問題ニシテ右ニ關シ本官若クハ副領事カ至急赤  
塔ニ赴キ緊急ニ實狀ヲ調査スルト共ニ直接赤塔官憲ト意見ノ交換ヲ行フ必要アルモノ

駐哈爾濱外務局特派員公署

哈外 №148

562

ト思ハルルカ滿側カソ側外交クリエニ對スル出國査證ヲ停止シ居ル關係上赤塔トノ連絡トレス從テ事態悪化ノ責任ハ滿側ニ在リト云フヘク就テハ滿側ニ於テ至急右出國査證ヲ發給スルヤ否ヤ明答ヲ求メ度

以上ヲ旬日ニ亘ル在ソ滿洲國領事館迫害ニ關スルソ側ノ正式回答ト看做シテ差支ヘナキヤ

右ハ真相調査及現地官憲トノ意見交換ノ爲館員ヲ派遣致度必要上先ツ査證問題ヲ解決セントスル本官ノ個人的希望ヲ表明セルモノナリ

事實、哈爾濱モスコ間ニ於ケル電信ハ片道五、六日ヲ要シ居リ加フルニモスコ赤塔間ニ於ケル照會ノ往復ヲモ考慮セハ電報ノミニ依ル措置ニハ相當ノ日數ヲ要スルコトト成ルヲ以テコノ際館員ヲ直接赤塔ニ派遣スルコトカ今後ニ於ケル紛糾防止ノ爲ノ捷徑ナリト思惟シ斯クハ査證問題先決ノ必要ヲ強調スル次第ナリ

駐哈爾濱外務局特派員公署

哈外 №148

563

下村 査證問題ニ關スル當方ノ回答ハ之ヲ保留ス尙電報送達ノ遅延振リハ我方領事館ト本國トノ間ニ於テ特ニ顯著ニシテ赤塔新京間四日ヲ費セルモノ又ハ到着不明ノモノスラアル模様ナリ兎モ角貴官カ斯ル重大事態ニ臨ミ種々辭柄ヲ構ヘテ回避的態度ヲ執ラルルハ遺憾ニシテソ側ノ正式回答ナキ限リ爾餘ノ問題ニ關スル貴官トノ會談モ或ハ見合ササルヲ得サルヤモ知レズ貴官ニ於テモ本件ノ重大性ヲ特ニ考慮サレモスコヨリ同答有次第夜半ニテモ直チニ當方ニ通報連絡セラレ度本日ノ會談ハ之ニテ打切ルコトト致度

モスコニ對シ同訓方促進ハスヘク然ラハ之ニテ失禮スヘシ

駐哈爾濱外務局特派員公署

哈外 №148

564



秘

昭和15 三一 ~~五~~ 三 晴 東京 十月廿八日後發 歐、亞  
本省 廿八日後着

近衛外務大臣

植田大使

第七五七號

往電第七四三號ニ同シ

二十七日武市領事ヨリ二十一日ハ泉副領事及劉主事、二十四日ハ儲  
大遠捕セラレ向レモ長時間留置セララルアリ其ノ後モ壓迫ハ依然繼  
續セラレ生活ノ苦感ハ緩和セラレサルニ依リ已ムナク二十六日外交  
代表ニ對シ全員引揚クヘキニ付便宜供與アリ度キ旨通告セル旨入電  
アリ依テ外務局ニ於テハ下村特派員ニ訓令シ即日「ゴルブツオフ」  
總領事代理ニ對シ右ニ付抗議スルト共ニ二日ノ期限ヲ附シ壓迫停止

電信寫

方ヲ要求シ右實行セラレサル場合ハ滿備ニ於テ如何ナル措置ヲ執ル  
モ其ノ責備ニ在ルヘキ旨申入レシメタル「ゴ」ハ準備シ既ニ壓  
迫ハ緩和セラレ居ル吉ナリトカ期限短キニ過ク等述ヘ引取りタル意  
ナリ

尚二十六日發「チタ」來電ニ依レハ二十五日ヨリ事態稍改善ノ徴ア  
リ宣讀及新聞既達復函シ又監視民智ノ數モ減少セル懸ナリ  
蘇、哈爾濱、滿洲里ヘ轉電セリ

秘

昭和13

三二一九四

暗

新京

十一月一日

午後

發

本省

一日

後着

有田外務大臣

植田大使

第七六九號

往電第七五七號ニ關シ

電信寫

廿一日「ロゴフ」副領事特派員公署員ヲ來訪シ在蘇滿洲國領事館ノ  
 狀態ハ平常化セラレタル旨通告スト述ヘ公署員ヨリ現ニ廿日「チタ  
 ニ於テ再ヒ傭人逮捕セラレタル旨ノ報告アリ何日ヨリ平常化セラレ  
 タル次第ナリヤト問ヘルニ對シ廿一日以降ノコトト考フル旨答ヘタ  
 リ依テ公署員ハ兎ニ角滿洲ニ於テ蘇側ノ所謂平常化ヲ確認シタル上  
 ニテ爾後ノ問題ノ討議ニ入ルコトトスヘキ旨應酬シ置ケル事ナリ  
 蘇、哈爾濱、滿洲里へ暗送セリ

(6)

於  
夕

567

REEL No. A-0303

アジア歴史資料センター